愛國婦人會機關　愛國婦人會の目的は遺族及廢兵を救護するにあり

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢 一ヶ月金六錢 半年分參拾六錢 全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部無轉載

東京麹町區（牛ヶ淵公園）
發行所 愛國婦人會發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

社說

同情すべき婦人

世には氣の毒なる婦人多し。元來裕福の家に生れて、數多の侍女にかしづかれ、着物髮飾り思ひの儘にて、出てゝは交際界の花よ女王よと持囃され、女の果報を一身に集めたる身の、一朝破產の爲に落ちぶれて、詫しき暮をなせるも、氣の毒なるものなり。されど、これは始めが好過ぎたるにて、今ほどの者は、幾らもあれば、氣の持ち樣にては、隨分樂しく暮らせるべし。內にありて炊焚き洗濯、子供の世話して、女らしき生活せる者多き中に、己れは土方の眞似して土を運び、或は子を背に負ひくゝりて、車の後押しするも、氣の毒なものなれど、一日の仕事を終へて、家に夫と膳に向へば、晝の苦勞も忘れて、樂み亦其中にあるべし。其他老て子を失へる者、頼みし夫に別れたる者、長病に惱む者、貧乏に苦しむ者等、氣の毒なる婦人を擧ぐれば、數限りなかるべし。然れども是等は人も氣の毒と思ひ、同情を寄するものにて、人はこの同情に依りて生活する上は、自らまた慰さむる所なきにあらずと雖も、こゝに案外なる氣の毒の婦人あり。餘所目には如何にも幸福にて、人に羨まれながら、自らは常に心に泣きて、羨む者を羨む婦人あり。今日の米がなきからにあらず、米は常に櫃に滿ちて、嘗て其價を知らず、着物が買へぬからにあらず、三越、白木屋呼び寄せて、新柄流行、心の儘なり、人が敬まはぬからにあらず、某夫人と云はれて、何處へ出ても屈まぬ者なし、其他芝居見物、溫泉旅行、四時の行樂一として儘ならぬはなく、彼の人こそは仕合せ者なれ、如何なる月日の下に生れたればか、せめてあの半分でもと云はるゝ身にてありながら、何が不足にて、顏色惡く、笑はれもせず、眼瞼を腫して居らるゝぞと、人の訝かる婦人あり。讀者は如何なる婦人と思はるゝか、斯る矛盾せる婦人のある筈なしと思はれんも道理、身に覺へなければ想像は付くまじきも、其實世間には斯る婦人が澤山あるなり、外國には稀にして、日本が其本場にて、文明の中心と誇る都會ほど多きなり。外にもあらず夜半人は、安き眠に入れる間に、己れは一人燈下に思案の首をなげ、或は涙に夜具を濕ほせる婦人をいふなり。姑が八釜敷にあらず、子が大病なるにあらず、夫が不品行なるにあり。「己れが己れの腕で遊ぶに、何の文句があるか」とは貧富を通じて敎育なき日本男子の心底にて、着々之を實行し、實行せんと稼いで居るなり。其中貧なるものは、先き立つ金がなければ、遊ばんにも遊ばれざれど、困りものは、富める者なり。敎育なく、品性賤しき情けなさは、偶々金は持ちながら、善用の道を知らずして、或は酒樓に妓と戲れ、百出の醜體を演じて猩々の如くなりて、深夜大きな顏して歸るもあり、或は花柳に遊び、妾を置きて、內を外に歸らぬもあり。而して少しく婦人が其不體裁を云々すれば、悋氣は婦人の禁物なり、「妬なれば去る」と聖人の敎もあるにあらずやと、何處で覺へて來たか、此所だけは聖人を出して、放蕩辯護の楯となし、二言いへば、エッ面白くもないと、フイと出たきり歸り來らず、殘念で、情けなくて、涙がこぼれて、いつそ死んでと思ふことも、屢々あれど、流石に外聞を憚かりてそれもならず、獨り心に泣き居る奧方、夫人、內儀を思ひ見よ、子を刺されて平氣を粧ふ政岡の苦みにも似たらずや。人世の悲劇一生の不幸何物か之に過ぐべき。況んやこれが一人や二人にあらず、日本全國何十萬か分らざるをや。而してこれが獨り妻女當人の不幸のみならず、一家の平和を害して、此世の極樂たるべき家庭を地獄となし、或は夜半眠らず一人物思ひ居る母を見て、子供心に心配して安眠せず、延いて子の神經質となるもあり、或は父を見習ふて料理屋に遊びて、若樣と立てらるゝに始まりて、風呂も綺麗で廣し、料理も內よりは甘しなど、生意氣をいひて、遂には野良息子となるもあり、或は父の惡疾禍をなして、子の生れぬもあり、折角生れても盲目、馬鹿などにて、一家は勿論、害を人類に及ぼすもあり。元は皆夫の不品行に在るものなれば、妻たる者は、自他の爲に、充分之を豫防し、又其行を改めしめざるべからず。之に就ては福澤先生も嘗て其「女大學評論」中に左の如く說れたり。

「國家の貧富は我家の利害に關係なしと雖も、夫の婬亂不品行は、直接に妻の權利を害するものにして、固より同日の論に非ず、抑も一夫一婦家に居て、偕老同穴は結婚の契約なるに、其夫婦の一方が契約を無視し、敢て婬亂不品行を恣にし、他の一方を疎外するが如きは、即ち之を虐待し、之を侮辱することにして、破約加害の大なるものなれば、被害者たる婦人が、正々堂々の議論以て其罪を責むるは、契約の權利を護るの法にして、固より嫉妬の痴情に躁らるゝものに非ず、但し其これを議論するに、聲色を温雅にするは、上流社會の態度に於て、自然に然る可し、我輩に於ても固より其野鄙粗暴を好まず、女性の當然なりと雖も、實際不品行の罪は一毫も恕す可からず、一毫も用捨す可からず、之が爲めに男子の怒ることあるも恐るゝに足らず、心を金石の如くにして爭ふこそ、婦人の本分なれ……我輩は之を婦人の正論と認め、其氣力の饒ならんことを勸告する者なり」

名文名論一字一句を加減すべからず、婦人の其儘實行すべき所のものなり。西洋にては、社會の道德健全にして、紳士の體面強ければ、不品行などして、其制裁が保てるものにあらずと雖も、我國にては平氣なものにて、不品行は紳士の看板と思はるゝほどなれば、內證は勿論、公然行ふて憚らず、此方にては文明も何も、あつたものにあらず。畢竟誰の咎かといふに、第一男子が惡いに相違なきも、婦人が如何にも意氣地なきに因にて、福澤流の必要なる所以なり。然れども一家に在りて夫と面爭するは、たとへ理屈にては夫が負けても、何かにて埋め合せをなすべし、延て一般に面白からざる關係を生ずるの恐れあれば、其手加減こそ頗る大切なりと云ふべし。然るにこゝに夫の感情をも害せずして、矯正の奏功慥かなる方法あり、そは他にあらず、婦人が聯合して、健全にして、有力なる社會の制裁を作り出して、不品行なる男子は、社會より放逐して、相手にせぬやうするにあり。何も始めて日本の婦人がするにあらず、西洋にては皆それなり。戰爭の當時驚くべき力を以て、軍人の後援となりて、赫々の勝利を得しめたる同じ婦人が、平和に際して、これだけの聯合が出來ず、社會の制裁を作り出す能はずとありては、婦人の婦人たる面目何處にかある、これ寧ろ戰爭よりも大なる婦人の死活問題なり、之を外にして、何に由てか婦人の本領、生命を全ふするを得べき、富、位置、美服、指環、其他婦人の焦心し要求するあらゆるものは、すべて枝葉の事なり、憐れ此一事が破壞され、蹂躙され居る以上は、何があつてもすべて駄目なり。願くば我が國婦人が此根本問題に着眼し、努力して、一は以て私に泣ける最も同情すべき婦人の涙を乾かし、一は婦人たるの面目を發揮せられんことを。

電話番町五百二十番

◎本號には愛國婦人會島根支部職員の肖像を寫眞版附錄とす

櫻花號發刊

吾が愛國婦人は讀者諸姉の深厚なる愛眷の下に、日に月に盛運に赴き、號を重ぬるに隨ふて發行部數の增刷を見るに至り、今春よりは殆ど昨年に倍するの部數を刷出して、而して猶ほ足らざるを慊む程となれり、於此乎、この盛運、大發展を祝すると同時に、聊か諸姉の愛顧に酬ゆる爲め、花笑ひ鳥謠ふ、來る

三月二十日

發刊の本紙を

櫻花號

と題し滿紙唯これ花！の盛觀を呈せんとす、而も微力思ひ餘りて其期する所の萬分の一をも盡し能はざらんことを恐る、されど本紙には

名流大家

の常に贊同して筆を執らるゝあり、數百の才媛の想を凝らし文を練りて應援せらるゝあれば、或は想外の好果を收め得て

爛熳櫻花

の夫れよりもかゞやかしき美觀を呈せん、尙ほ

閨秀六佳選

と題し、數百の寄稿家中より六人の才媛を選出し、名家に囑して其得意の文、詩、歌、句を揭げ、以て萬朶の花更らに美花を添へ、情興悠々春の水の如く、美裝霞棚引く春の山の如くなるべきを期す、乞ふ愛讀を給へ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

慈善とは何ぞ

文學士　深作安文

我々人間が社會に對する道德は大別して二つある、一は正義と云ひ、一は仁愛と云ふ、正義とは他人の利益を妨害せず、他人とても自己の利益を侵害されない樣にすることである、仁愛とは他人の困難を救ひ、其幸福を增進せしむることである、正義の根柢には權利の觀念があり、仁愛には同情とか、同類意識とか云ふものが基礎となつて居る、人間が互に自己の權利を主張し、自分の義務を行ひ、正義の道德が實現せらるれば十分であると考へるのは、法律的理想から起る議論であつて、道德的理想は社會を爲せる人々が相愛し相助けて、喜憂を共に、禍福を分ち、美しき同情の紐でお互を結び付け、精神的結合を全うするにある、此理想を實現する爲に、世間の同情に富んだ人が慈善をなすは寔に大切なことである。

さうして其の慈善にも又二通りある、一は精神的慈善、一は物質的慈善である、精神的慈善は才能、知識、道德、信仰等の[illegible]に分ち與へることであるが、これは慈善と云はないで、今日では教育と云ふて居る、此處で所謂慈善とは物質的、則ち財産を分ち與へることゝなつて居る、則ち貧者、病者、罹災者等に金錢、衣食、勞力等を補助してやり、其苦痛を減じ、其失望を慰め、其精神を鼓舞して新なる勇氣を出させ、前途希望を以て生活の出來るやうに爲さしむることである、實に慈善と云ふことは結構なことであつて、受惠者の心をば底より動かし、恩人に對して尊敬、感謝、報恩の念を起させ、恩人の爲には生命を抛つをも惜まず、子々孫々まで傳へて以て長く忘れず、此反映として慈善家の同情を刺激し、益々慈善行爲を助長せしむることとなるので、云ふまでもなく慈善は其關係者を精神的に結合して、社會の組織を鞏固にさす力がある、斯樣に考へると、慈善は我々人類の行爲の中で最も高尚なるもの、最も重用なるもの、一である、彼の動物社會を見ると、自己あるを知つて他の同類あるを知らず、自己の生命を保存する爲には何事でもなし兼ぬ、故に力が絶對の價値であつて、強いものが勝ち、弱いものが敗ける、則ち弱肉強食とはこれである、處が人間には高尚なる同情、同類意識があつて、弱者を助け、不幸を憫れみ、以て無上の滿足を感んずる精神の働きがある、此點丈けでも我々は萬物の靈長と云ふことが出來るのである。

斯くの如く慈善は絶對的善行であつて、何人が行ふても、如何なる場合に行ふても宜しい、然らば慈善を制限する條件なぞは無用であるかと云ふと決して左樣でない、慈善はこれを行ふ方面より云ふも、これを受ける方面より云ふも、種々の條件がある、先づ自分は次の四條件を必要と認める。

第一條件　己れに對する本務

我々は天與の能力を發達さして自己の人格を立派にする本務がある、故に若しこれあるを知らずして行へば、其志は結構であつても、本末を轉倒したことになるから、先づ己を顧て然る後人に及ぼすべきである。

第二條件　親疎の別

慈善は自己と關係の親密なるものを先にし、關係の少い者を後にすべきである、家族、親族、朋友、夫れから鄕黨に及すべき順序のものである、乞食に金を與へるを惜しまないからと云つても、父母妻子の奉養を缺けば、此の行ひは、惡よりも惡となる。

第三條件　受惠者獨立心の保護

自主獨立と云ふことは吾々人間の生活に最も大切で、獨立を失へば人たるの價値が大半亡失したと云ふてもよい、若し一片の同情心よりして慈善を行ふても、其結果受惠者に依賴心を起させ、獨立を害するやうなことがあれば、其動機は善であつても、其行爲は道德の禁を侵したものとなる、慈善の目的は前に陳べた如く獨立して自己の生活を營み、其物を有用ならしむるものでなくてはならぬ、言葉を替へて云へば、獨立心の覺醒に外ならぬのである。

第四條件　方法の選擇

第三條件の必要の結果として方法の選擇が大切になつて來る、方法が惡しければ折角の善い目的が、單に達せられないと云ふ許りでなく、直接には受惠者、間接には社會を荼毒することになる、一概には云はれないが、特別の場合の外金員を與へるのは考へものであると思ふ、先方の體力なり、時間なり事情なりが一定の勞作に堪へるものであれば、先づそれに服させて、これが報酬（勿論嚴正の意味でない）として與へればよからう、二宮尊德先生が難澁を訴へて來た百姓に、鍬を一挺づゝ呉れてやつたと云ふのは、大に參考すべきことであると思ふ。

名譽の預選者
磯山まん子[illegible]孃

外人の觀たる日本

法學博士　秋山雅之介

私は日露戰爭後歐米を早脚夫の如くに巡回して歸りましたが、十年前の彼の地と、今日の彼の地とを比較しますと、著しく發達を致して居ります、先づ米國に就いて話しますと、古い家を叩き毀して、皆新しい家を建てかけて居りまして、其富の增進の度合の著しいことが見えます、米國には御承知の通り常備兵を置きませんで、戰爭が濟めば直ちに休養さして商工業に從事させ、國を擧げて富の增殖に勉めて居ります、米國の發達の有樣を見て英國に行つて見ますと、一寸衰へかけたかと思ひましたが、佛國巴里へ行つて再び英國に戻つて見ますと、英國は矢張り衰へて居ない、中々繁榮して居ると認めました、それから歐洲大陸の人が我々日本人に對する待遇は、十年前には私共が汽車に乗つて居ると、頻りと日本の狀況などを質問致したものであります、併しこれは日本を研究する爲に質問するのではなく、旅の無聊を慰むる爲に聞くので、甚だ敬意を失ふた態度でありましたが、今日は私共が汽車に乗つて居ても、猥りに日本のことを質問せず、紳士的待遇して少しも敬意を失する樣なことを致しません、然らばと云ふて日本が研究されて無いかと云ふにさうではない、日本に關する著書の出版されることは夥多しいもので、他の著書には割引があるが、日本の著書には一文も割引がない、私共は僅かの滯在中に、日本に關する著書のみで百五十種程買ひ調へて來ました、日本は歐米の研究材料になつて居るのであります、十年前までは、日本の公使館は支那の公使館の一部であるとまで思ふて居つた者が多かつたが、今日では日本は別に求めずとも大使館を置くやうになり、世界一等國の列に入つたのであります、斯樣な次第となつたのは全く日露戰爭に勝つたからで、戰爭に強いと云ふ一點であります、露國の強兵はナポレオン戰爭の時よりして歐洲を震動さして居て、これに勝つ國は世界に無いとまで思ひ込み、其慣習の久しきよりして露國の申分は外交上何事でも其云ひ分が立つたので、平和會議の如きも露國が主張じたから始めて成り立つと云ふ程でありました、で外交團では露國が一番畏敬されて居たのでありますが、それよりも尚一層強い國が東洋に顯はれたが爲に、世界の人の耳目を驚かし、日本が謳歌されることゝなつたのであります、併し外國では斯くの如く日本は非常に稱贊を受けて居りますが、飜つて日本の有樣を見ますと、殘念ながら外國に劣つて居ることが多くあります、精神的の文明は彼等に劣つて居らぬと私は考へますが、物質上の文明は確かに劣つて居ります、東京に電車が出來ても、自働車が出來ても、中々及びも付かぬことであります、それと申すも日本には金が足りないからで、物質的文明を持込むことが出來ないのであります、此節は日本に於ても實業熱が盛んでありまして、種々なる會社も出來ますが、總ての思想が少しく浮薄に流るゝやうになりはせぬかと思ひます、西洋人が日本を稱贊するのは未だ十分に日本の眞價を知らないで、單に戰爭に強いと云ふ其一點の爲に、萬事これに伴ふたる文明の國であるかの如くに信じて金も貸し信用をも置くのであるから、其眞相を研究したならば、或は今日の態度が變らないとも限らぬと思ひます、併しこれは私の杞憂であつて、又杞憂に止まるとを希望致します、兎に角今日の日本臣民は、其男女を問はず、健全なる思想を持つて一國の隆盛を計ることを心掛けねばならぬのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如月

人見東明

ふと覺めかゝる心の弱い力に促されて、重い瞼を見開く、もう日は暮れ、灰色がかつた夕闇の空氣が強く障子を壓して、室は暗黒にとざされてゐる。枕頭にある水仙の花が香を零し、病室の闇に冷くとけてゐる。私はその冷い香を嗅ぎつゝ淋しい思ひに沈んでゐるのである。何とはなしに悲愁なつて、涙がぽたり〳〵と頰を傳ふて落ち、やがては鉛をでも呑んだやうな、一種の重い苦惱と憂愁とを感ずるので、床の上に半ば身を起して見た、然れども苦さが增すのみ。

胸を撫て、手を撫て、膝を撫て見るけれども、骨ばかりの痩細つた軀には血の氣さへ絕えて、我れと我が身の冷さを感ずるのだ。『あゝ如此になつたのか』と肉の衰れなる姿を沁々思ふ、悲痛は一增強く、烈しく胸を搔き亂すので、深い嘆息は我知らず口を突いて洩れた。

すると間もなく、襖の開く音がして、闇に光りが流れ込む。

「お覺めなの、お容體は如何で……」

若き友の妻が心配さうに枕頭に坐ると友も來て。

「どうだ、少しは眠れたか」

私は友の顏を淋しさうに見て重い太息を洩した。友の眼は一種の強い光りを以て輝き、顏には神々しい表情がきらめいてゐる。丁度神を慕ふ道の子が、厚い信仰の熾きにもえてゐる時のやうに、身も心も力に充ち滿ちとしてゐる。友は小說の創作にでも從事してゐたのであらうか、藝術家が藝術の述作に耽つた時程神々しいものはない、友の今はそれなのである。私は雄々しい友の姿を見て。衰え行く自分の姿が鏡にでも映し出されたかの如く、あり〳〵と愁れなるさまが日に見え。どうして之れて友の樣に希望もあり光明もある人となれやうか、友は人生の勝利者である、だが自分は總ての敗者だ。希望に破れ。信仰に破れ。名に敗れ。將又戀に破れて、悲むべき最後をとげたでないか。ささやかなる吾が歷史は血と涙を以て誌されたる哀史ではないか。何て私が友のやうな雄々しい人として人生の鬪ひにのぞむ事が出來やう。名もなく、香もなく、埋れゆく草のやうに朽ちるのが私の運命だ。一度はこの運命を盛り返して、由々しい勝利の聲をあげてみたい。けれども今はもう其れも出來ないのであらう。たゞ〳〵望むべく戀ふべきは、狹い棺と、暗い穴の中のみ、あゝ「死」が私の戀人であるのだ。斯う思ふた時、私は身も世もあられぬ悲しさと、胸を裂るる如き苦みを覺えたのである。

友の妻が燈火を運ぶのを制止し、親切なる友が看護も斥け。私は闇い室に閉籠つて、獨り淋しい思に耽らうとした。

戸外には風の音が梢から落ちて、あとは寂しい夜の氣がさして來る。晝は學校通ひの若き人々に町の靜さをやぶられるけれども、夜に入れば人通り稀れなる老松町は寢靜まつたがやうに寂寞する、をり〳〵草のそよぎ、木の葉のささやきも聞えるが、今宵はそれさへない、またなく寂しい、丁度大深林の中ででもあるやうだ。て私は骨立つ胸に手をあてて、痛い思ひに耽つてゐると。優しい、だが聞きなれぬ聲をして私の名を頻りに呼ぶ。それが誰かわからぬけれど、何だか逢ひたいので、密と障子を開けて庭下駄を突掛けたまゝ木戸口から原に出た、其れとも覺しい人の姿は見えずに、去年の夏切り殘された杉の老木が妖婆の如き影を空中に見せてゐるのみで、人影らしい物は無い。如月寒むの夜風が露を零して木の葉を渡ると、星が長い光の尾を引いて北の方に流れた。梅が匂ひ出して、その香の奥に戀しい人がゐる樣に思はれる。

私は老梅のある畑地に病餘の力ない軀を運んだ、畑の中には軒傾き壁落ちて、荒れに〳〵果てたる廢屋がある。私は倒れかかつた軒柱に身を支へて空を仰いだ、空には清い星がまたたいてゐる。

『おゝ、わが人よ。』

私は力ない聲を絞り出して叫んだ、私の戀人は私を愛してゐる、けれども私にはその清い美しい顏を見せぬ、私はその人を戀ふて〳〵、今日は來るか明日は來るかと待つてゐる、だがその人は來ずして、來るのは狹い棺と暗い墓ばかり、私は死の顏を見ねばならぬのだ。

『星よ、おゝわが人よ。』

再び叫んだ。空を仰いで。傷ある胸を撫てて。星をその人と思ふて三度び叫んだ時。身も心も力を失つて、私は枯草の中に倒れたのである。

その後幾時間すぎたか知らぬ。

黑い風が梢に鳴ると。

『おゝ居た〳〵、此所に居たよ。』

私はやがて草の中から引起されて、友夫婦の肩に助けられながら、桑の切株や枯木に餘る三萬坪の荒蕪の地をぬけて家に歸り、再び病軀を床に橫へたのである。

友は眼に涙を湛へ戰ながら私の手を握り。友の妻は泣き伏してゐる。私は眼をつぶつてゐました、と眞ぐ前のブラックマーホームから讃美歌を歌ふ淸い聲が起る。私の傷ある胸にこの讃美歌が泌みとほつたので、何だか神に呼び覺まされたやうに感じた。此時かくれてゐた信仰が芽を私の胸にいふた。私は眼を靜に開て。

『もう生きたよ、僕は信仰に生きるのだ』

友は泣きました。戸外には如月の風が吹いてゐる。

シルレルの母

文學士　原篠川

獨逸詩人中最能く我國人に知られたるフリードリッヒ、フォン、シルレルは、自國第一流の劇詩作家にして、生前の心友ゲーテと雖ども、此點に於ては一歩を讓らざるを得ず、詩人の母をエリザベータ、ドロテアと云ふ、夫人は一千七百三十二年十二月十四日を以て、ヴュルテンベルク領內ネッカー河の右岸、マールバッハ市內の一旅館に產る。

此地を周りて野あり丘あり、野は綠草を以て蔽はれて牧場となり、丘は果實を以て充たされて果園となる、此の如き別乾坤裡に人と爲りたるドロテアは、早く散文よりも詩歌を愛して、グルレルト、ウツ等諸詩人の作物に渴仰し、自ら亦試作する所あり、或は歷史的著述を好みて、多く偉人の傳記を蒐め、或は又聖書に耽讀して、深く神明の高德を讚美す、詩人シルレルが歷史に通して史詩を能くし、特に人物高潔にして操持固かりしは、依つて來りし所あるなり。

其の丈中背にして肉付好からず、額は廣くして且聳え、髮は黃金色なれども稍赤味を帶び、アセボさへ甚だ多かりしと云へば、容姿阿娜として他を動かせるには非ず、而も資性怜悧にして能く家政を理め、孜々として倦む所なかりしかば、青年軍醫ロハン、カスパーの見初むる所となり、芳紀十七にして華燭の典を擧げぬ、家もと豐ならざるに、南船北馬して座も溫ならず、就中蒲柳の質なるよりして、幾度か重患の犯す所となりぬ、結婚後十年にして生れたる詩人の風采は、阿母の再生したるにも似たり。

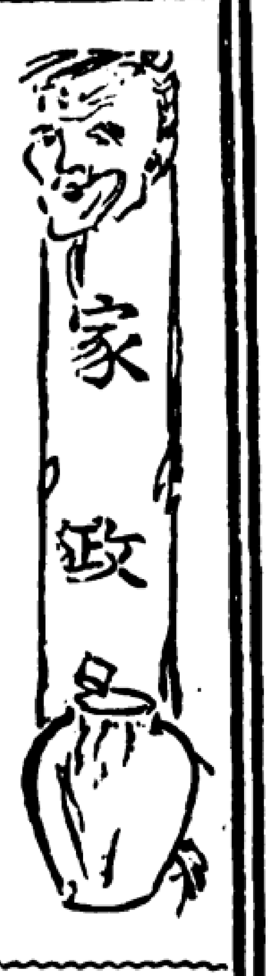
毎日曜日にドロテアは、其兒等を率ゐて里方の兩親を訪問るゝを例とせりき、此の如き夫人の孝養は痛く少年詩人を感動せしめけん、後年シルレル曾て其姉に贈りて曰く「寔に我等の母君は、能く其兩親に事へ給へり、我等も亦之に倣うて、母君に盡すべき責任輕からず候」と。

敬虔なる家庭に成長し、神職に任ぜんと欲したる寧馨兒をして、遂にカールス學校に醫學を修めしめたる者は、元より夫人等の素志にあらず、而して當時の狂暴熱が、此麒麟兒を魔殺し去らざりしものは、校門に愛兒を顧みる夫人の影の、魍魎をして怖れしめたるに依るのみ、

已にしてシルレルの詩才大に發し、領主の壓抑に堪へざるに至りて、一夜闇に乘して父母の家を去りぬ、之を豫知したりし夫人の痛苦は、後年詩人が傳したる留名と雖ども之を償ふに足らざりしならん、況や一千七百九十六年、其人は痛風症に罹りて病苦に呻吟し、一女ナネッテは流行熱に犯され、更に佛兵の抄掠し來るあり、其人と娘とは相前後して歿するに至りては、居綱なる夫人の堪ふる所にあらず、而して夫人の看護に務めたるは、シルレルに與へたる病父の書信に見るも明なりとす。

此後夫人は其兒の招きに應ぜず、獨りシュヴーベンに留りて、領主より贈られたるレオンベルク城中の一家屋と、百グルデンの年金とにより、靜に晩年を送りたりき、越えて一千八百〇二年四月廿九日クレーフェル、ズルツバッハのルイゼ女の許に於て歿す、其臨終に至るまで、嘗て祈禱の聲を絕たざりしと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



主婦の任務

評議員　大藏松子

主婦の爲す可き仕事は澤山にありますが、先づ一家の和合を計ることが最大なる要件であります、現今は女子教育の進歩と共に、高尚なる學理を知る婦人は澤山に出來るでありましやうが、私の實驗に依ると家事のことは學理を知つた丈けでは決して成功するものでないと思ひます、外に怒りの聲漏れず、内に恨む人、不平の人あるを知らず、上下通じて和氣靄々たるの家庭は眞に人の發達を助くるものであります、斯る家庭を作るは只主婦の心掛一つにあるのでありますから、主婦たるもの丶責任は非常に重いものであります、いづれの團體的集合に於ても、其中の一人に人の快感を損ずる行爲、即ち不親切、我儘、不正、不公平等の惡癖を有する人のあつた時は列席せる他の人々に不快の感を與へて、其集合は甚だ面白からぬものとなります、家庭も恰度それと同樣でありますから、主婦は先づ我身を反省して、己れを正しくすることが第一であります、これと同時に溫情を以て公平に下女下男を取扱ひ、例令我が子であつても決して我儘の行爲を許さぬ樣に注意して善き習慣を作らせますと、家庭は常に淸き樂しき空氣に滿ちます、從つて無教育なる下婢等も自然家風の感化を受け、始めて上下通じて家庭の趣味を味ひ得るに至るのであります、故に若し不和合にて樂しからざる家庭ありとせば、其れは全く主婦たる者の力足らざる故と私は思ふのであります。

次に主婦は一家の經濟を司る可き人でありますから、小心翼々として臺所に注意することも必要でありますが、若し家に一人でも病人が出來た時は、永い間辛苦せし臺所經濟も忽ちにして水泡に歸しますから、私の考へては家人の健康に注意して、多く病人の出來ぬ方法を取ることが、單に經濟上に有益なるのみならず、大なる幸福を受けることになります、健康を保つに付て最も細密な注意を要するは食物であります、玉子とか牛乳とかは何人に用ゐても其効があるものとは申されません、各人の體質をも考へずして、不注意に用ゐては身體に益なきのみか又甚だ不經濟なこととなります、其他肉でも魚類でも、滋養分が多いからとて年中これのみ用ゐては身體の爲めにはなりません、四季の時候に應じて料理法を變じ、口に合ふ樣にしてこそ始めて身體の爲めになるのであります。

次は健康を保つ良法として適宜な運動をすることでありますが、贅澤なる生活は兎角に運動を妨げて健康を破りますから、餘程注意しなければなりません、故に私は健康を保つために能く働きます、臺所のことは云ふまでもなく、家事萬端皆自分で立ち働いて居ります、斯うすると隨分多忙ではありますが、毎日氣持ちのよき日を送つて居ります、今若し私が數多き召使ひを置き、自ら成し得ることを人にのみ任せ、一寸の外出にも車に乘ると云ふ風で、一室に坐することのみ多き生活をしますと、必ず健康を破ります、其上召使の數を增すことは經濟上又考へねばならぬことであります、要するに健全なる生活は健康と經濟と相待つて効を奏するものであります。

主婦の外出

宮川保子

世の進歩と共に段々女子が表面に現はる丶樣になり、主婦も家政の側ら社會事業にも盡力せねばならぬと云ふ有樣で、女子の爲めには甚だ多忙な時期となりました、從つて主婦自身の交際も出來ますから、自然外出が多くなる事は止むを得ぬ次第でありますが、自分の實驗上細心に之を考へて見ますと、一寸したことが大なる結果となる場合が澤山にありますから、主婦たる者は大に反省して先づ主婦たるの責任を明らかにして、而して其本分を誤らぬやう充分注意せねばならぬと思ひます。

主婦の責任は兎に角一家を完全に整理し、夫をして内顧の憂なからしむることが主であつて、夫と子供の爲めには全く身を忘れて盡すべきものであります、故に自分の交際で外出することは先づ第二にしなければなりませぬ、併しこの道理を充分知つて居ながら、交際に興味がつくと家庭に多少の不都合を起すことが往々にしてあるものであります、此れが即ち知らず知らずの間に自分を主として居るので、主婦の責任を忘れたる行爲となるのであります。

夫れから子供一人に一人宛の乳母とか褓母でも置く家でありますと、主婦の外出が育兒の上に何等の影響も及ぼしませんが、普通中流の家庭で老人でもない時は、自然女中任せになりますから、母の留守に風を引かせるとか、或は胃を損ずるとか、怪我をさすとか、何れ多少の不都合を來たさぬとは限りません、よし斯る大事にまで至らずとも、夜分子供の安眠し得ぬ場合などは、僅かに母が終日手放した時に多いのであります、勿論病氣とか怪我とかは、母が居つてさへ平常有勝ちのことでありますが、兎に角自分の交際で外出した留守中に子供の身の上に何かの不都合を起しては、甚だ無責任なる母たるの如き感じがするのであります。

一體一家を維持するは經濟のことが重用な問題でありますが、親の遺產に依つて衣食する人や、上流社界の主婦は、一家の經濟に左程手腕を要しませんが、獨力で一家を經營する家庭では、主婦の心掛が一家の浮沈に關するのであります、故に此る家庭に於ける主婦で、若し外交にのみ熱中する樣になりますと、必ず家事に疎くなります、經濟は小心翼々として細かき所に最も注意を要するのでありますから、外に氣を奪はれると、自然內に不都合を來たすことは、實際爭はれぬ事實かと存じます、されば、と云つて、主婦は只家を整理さへすれば宜いとて、年中引籠つてのみ居るのも大に考へものであります、人と交はりませんと第一見聞が狹くなり、自然自分が燻ぶつて來ます、主婦が燻ぶりますと家庭に趣味がなくなり、段々と一家の活氣が失せて行くは慥かであります、其上女子なればとて國家の爲め、或は人のためには分に應じて盡さねばならぬ義務がありますから、引込策のみを取るは又甚だ不可なことであります、故に此間の消息を能く解して、此れを適宜に處置し、內外相待つて不都合なき行爲を取らねばなりません。

外出に就て最も注意を要するは虛榮心であります、婦人の多くは交際のために外へ出ることを好むと共に、陷り易きは虛榮心であります、若し主婦にして虛榮心增長し家の收入を考へずして美衣を着け、身分不相應なる交際を樂しむ樣になりますと、其家庭は實に憐むべき境遇となります、要するに私の考へでは、先づ主婦たる者は家庭に少しの不都合も來たさぬ範圍內に於て、外出し交際もすべきものであつて、國家社會の爲めとは云へ、內に不都合を生じて迄外へ出て働くことは、主婦としての本分を誤てるものかと思ひます。

閨秀六佳選投票

一　第一面條告の通り、櫻花號に揭ぐべき閨秀六人を選ぶ
一　其方法は、現在の短文、和歌、新體詩、俳句投稿者中より任意六人を投票する事
一　されば選ぶ人も、選ばる丶人も、必ず投稿者に限る事
一　投票は葉書にて何誰と六人の氏名を明、瞭に認むる事
一　當選者並に推薦者の氏名は三月五日發行の本紙にて發表すべし

締切二月廿八日

理想の夫

某夫人

人生婦人の身となる勿れ、百年の苦樂他人に依ると申しますが、これは昔の話し斗りでなく、今日でさへ矢張り婦人は此境遇に在る者が甚だ多いのであります、勿論近來は女子も獨立して自由に生活を爲し得るの世となりましたから、女子は必ず男子に縋りてのみ禍福の定まるものとは限りませんが、婦人は人の妻となるのが多數ですから、一般の女子としては皆其良人に依りて運命が定まるものであります、故に良人の撰擇法は婦人に取つて最も大切なる事柄であります。

然らば如何なる人物が女子の爲に幸多き良人であるかと申すに、私は獨力にて成功なし得る人と斷言するに憚りません、己れの腕一つで社會に優勢の地位を占め得る技倆を持つて居る處の男子を夫とせば、妻として甚だ張合があると思ひます、殊に結婚當時は假令ひ貧賤であつても、夫婦協力して其辛苦に耐へ、漸次相當の地位に達したる時の樂しみは、彼の富や位地を目的に結婚し、勞せずして大廈高樓に起臥する輩の夢にだも知ることが出來ないであらうと思ひます。

然るに近來の女學生が理想とする夫は如何と申すに、其相手方たる可き人物に着眼せず、先づ其位置、富、學位等が第一の主眼となつて居ます、是も人間の弱點として止むを得ぬことですが、若し現時の日本婦人の思想が斯く着實ならぬものとすれば、實に思想界の大問題で、又國家の爲に歎ず可きことであります。

人生の交りは、單に友人たるの間に於ても樂みを別つのみが友誼の交誼ではありません、苦しみを別つてこそ眞の友愛の情が起るのであります、友人間でさへ尙然り、況んや夫となり妻となりて生涯共に家庭を作らんとする際に於て、富や位置の如き物質的方面に重を置き、其人物を第二位に置くと云ふが如きは、眞面目なる考へを有する者の迚も想像し能はぬことかと思ひます。

二人して働いて得たる富や地位で無くては、眞に我物ではありません、始めより富の爲め位置の爲に結婚するは、妻たるの資格を具へて居りません、夫の富や夫の位置は結婚前よりして既に夫の握り得たる運命の鍵でありまして、後より飛入つた處が其鍵の手が妻の爲に開かれるものでなく、夫と同一なる幸福を享有することは出來ません、糟糠の妻にして始めて堂より下さゞるの待遇を享け得る資格と特權が出來るのでありますが、始より富や位置を目的に嫁した妻は、身に絹布を纏ふも、心は奴隷の如きものでありまして、皿一枚、圖一重れても自己の勤勞に依つて作り得たるものでない家に安居して、何等の幸福が得られましやうか、何んの富がありましやうか、斯る夫を理想とせる現今の女學生こそ、眞に卑しむべくまた憫れむべきであると云はれねばなりません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●評議員會日取　二月分評議員會の日取は左の如し

二月二十七日（第四水曜日）午后二時

●評議員會の模樣　一月廿三日午後二時より本部樓上に於て評議員會を開く來會者近衛理事始め千家評議員以下廿一名出席し救護課を設くる件（可決）及第六回總會開催上必要につき準備委員長一名及委員十五名を設くる件（委員は會長指命にて可決）を議し午后四時散會せり

●評議員會の決議事項　左の通り評議員會に於て決議せり

一、救護課を設くる事

定期救護實施現況調査書の調査及び生產事業の監督幷通常事務の繁劇を加ふるにより本部中に此一課を置く事

二、本部規則中左の如く改正增補する事

一、第二條中本部ニ左ノ「二課」トアルヲ「三課」ニ改メ「庶務課」ノ次ニ「救護課」ノ三字ヲ增補ス

一、第三條中「庶務課ハ云々」ノ項中「救護」ノ二字ヲ削リ此項ノ次ニ「救護課ハ救護金贈與ニ關スル事項、戰死準戰死者ノ遺族及ヒ廢兵授產事業ニ關スル事項、被救護者人名簿調製、救護ニ關スル統計其他救護事業ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌ス」ノ一項ヲ增補ス

一、第五條中課長「二名」トアルヲ「三名」ニ改ム

一、第七條中「課長ハ云々」ノ項「庶務」ノ次ニ「救護」ノ二字ヲ增補ス

議案第三號

一、愛國婦人會本部事務細則中左ノ如ク改正スル事

一、第一條中「救護」ノ二字ヲ削ル

一、第二條ヲ左ノ如ク改ム

第二條　救護課分掌事項左ノ如シ

救護金贈與ニ關スル事項、戰死準戰死者ノ遺族及ヒ廢兵授產事業ニ關スル事項、被救護者人名簿調製、救護ニ關スル統計、前項ノ外救護事業一切ニ關スル件

一、元第二條ヲ第三條ニ改メ以下各條順次ニ繰下グル事

一、第十四條中「是レガ主任者調査ヲナシ」トアルヲ「救護課長之ヲ調査シ」ニ改ム

●支部長及顧問囑託　左の人々に支部長支部副長及顧問を囑託せり

高知支部長　鈴木祿子
同顧問　從四位鈴木定直
廣島支部長　宗像直子
同顧問　從四位宗像政
新潟支部長　伯爵夫人清棲滿子
同顧問　伯爵清棲家教
茨城支部長　森うん子
茨城支部顧問　從五位森正隆
滋賀支部長　川島澄子
同顧問　從五位川島純幹
岩手支部長　笠井芳子
同顧問　從五位笠井信一
和歌山支部長　伊澤德子
同顧問　從五位伊澤多喜男
熊本支部長　押川愛子
同顧問　從四位押川則吉
愛媛支部副長　西久保ミサ子
福井支部副長　池松鐵子

●奥村刀自　唐津に靜養中なりし奥村刀自は病氣治療の爲め一月十六日唐津出發一月廿日京都着一月廿三日京都大學病院に入院せり附添として出張中なる富樫眞喜子よりの病床報知の大要は左の如し

入院后著しき差異なく熱は三十六度より九度咳嗽喀痰烈敷く安眠不能故に疲勞不勘日に五回吸入を施し含嗽を不絕目下は氣管子加答兒の治療を專一となし後笠原博士始他醫師も毎日回診せり手術の儀については元福岡病院にて高山博士の診察の際にも別段切斷を要すとの診斷にも無之由にて同博士も兎に角氣管支の方全快の後再檢診し笠原博士と協議の上決定するとの事にて手術は未定なり

各地支部狀況

▲韓國本部　韓國に於ける本會委員本部に於ては韓國の嘉禮擧行につき祝意を表する爲め韓國本部委員副長加藤眞佐子氏を本部の代表者とし京城委員部長三浦喜代子氏を京城支部長代表者として去月廿六日參闕祝詞を言上したり

▲東京支部　昨三十九年十月愛國婦人會東京支部神田區幹事部に於て日露戰役の爲め廢兵となり又は戰死準戰死者遺族にして生計不如意の者に對し生計の一助たらしむる目的を以て設立したる授產場に於ては第一着手として足袋製造業に從事せしむることゝなり目下漸々其緒に就けるを以て漸次擴張に傚ひ他の事業に及ぼさんとするの計畫なりと尙ほ同幹事部に於ては去る二十日錦輝館に於て慈善演藝會を開きたる處入場者多く頗る盛會なりき。

▲大阪支部　軍人遺家族の授產に全力を注ぎて倦まず現在會員は昨年來勸誘の結果二万七千餘人となり昨年授產事業に由りて軍人遺家族の收得したる工賃一萬七千餘圓に上りたるがこれ多くは陸軍被服廠の受負仕事のみなるも其の工賃は擧げて彼等に與へ尙及ばざるを恐ふる有樣なり現在收容人員は約五千名にして其の他授產を了りて自家に於て職業に就けるものを合すれば百餘名あり本年一月よりは郡部其の他遠隔地に在りて通勤に困難なるもの十數名を同會內に寄宿せしめ食費其の他を給して授產し幼兒あれば保姆を附して懇ろに保育する等頗る遺憾なき遺家族を遇するの途としては至らざるなし役員諸氏亦孰れも上流夫人にして常務幹事當直幹事等に任じ就中彼等遺家族と伍して職業服を着し孜々として努め居れり。

▲北海道支部　去月五日札幌市赤十字社に於て新年會を開けり來會者九十名小池事務員の挨拶ありて總裁殿下の御眞影を拜し順次拜賀の式を行ひ後ち岡由葉相談役の演說あり天皇陛下の萬歲を三唱し次に愛國婦人會萬歲を唱へて式後宴會に移り午後三時退散せり。

▲青森支部　去月六日支部樓上に於て新年會を開きたり四澤支部長は總裁殿下の御眞影の前に進みて拜賀の式を爲すや參列員一同之に傚ひ拜賀し畢つて功勞者廣坂評議員及中村幹事へ料紙箱一個を贈與し終つて新年會に移り同時に廣坂中村兩氏の爲に送別會を催せり余興に謠曲琵琶引等ありて盛會なりし尙ほ支部現在會員は九千餘名なるが引續き入會者多ければ其一万人に達する遠きにあらずと云ふ。

▲秋田支部　新年祝賀會を去月十二日正午より縣公會堂に於て開けり來會者二百餘名招待主事開會を宣告し戶崎氏君か代を彈奏し一同之に唱和し終りて總裁殿下の御寫眞に敬禮を爲し小山相談役は各團體の發起人に代りて開會の辭を述へ下岡支部長を紹介し招待主事は昨年中に於ける愛國婦人會支部の重なる事蹟を報告し式を終へ折詰辨當に屠蘇を進め福引の余興あり和氣靄々の裡に散會せしは午後四時頃なりし。

▲山梨支部　同郡西八代郡幹事部に於ては一月十三日第一回總會を市川大門町小學校內に開きたり出席會員百三十余名山梨支部長武田濱子及支部顧問武田知事齋田支部主事西八代郡長臨に市川警察署長其他郡町村長學校長等五十余名あり式場正面には松葉を以て奉迎場を造り之に總裁宮殿下の御寫眞を安置し奉り午前十時一同着席するや君が代の唱歌に續て西八代郡幹事顧武富久子開會の辭に續て三十七八年戰役の際賜りたる令旨を奉讀し山梨支部長武田濱子の訓辭幹事渡邊米子の答辭及會務報告會員總代の祝詞等あり式終りて顧式幹事より愛國婦人會有志會規則を來賓に諮りたるに滿場一致を以て原案に可決せり夫より一同講話場に至り山梨縣甲府英和女學校教師アルロン氏の加奈陀の家庭家族の有有なる家庭婦の心得と題する演題の下の各一場の講話あり終つて茶話會に移り稲垣校長の女子教育談あり散會せしは午後一時なりし。

▲埼玉支部　埼玉支部に於ては一月四日午後一時より支部長大久保喋子氏以下副長評議員幹事部幹事等赤十字支部に集會　總裁殿下の御寫眞を拜し新年の賀儀を陳へ終て一同支部長邸へ會し茶菓の饗應を受け今後支部活動の方法等の協議懇談し福引其他の餘興あり今日の淸遊を盡し和氣堂に滿ち午後五時散會せり又評議員山本ゆき子轉任に付き同時に送別茶話會を赤十字支部に開き前記の諸氏出席紀念品を贈呈せり。

▲群馬支部　碓氷郡幹事部に於ては同郡役所內に於て年始會を去月十四日開會せり柳澤石井兩幹事幹員の下に茶菓會の饗應あり松永綾之助氏より寄付の蓄音器の余興あり盛會なりき。

▲新潟支部　三條郡幹事支部長藤臨子氏の發企にて會員の互禮會を兼れ三條町軍人遺族慰安の目的にて一同を招待し二州樓に於て互禮會を催したるが來賓二十名出席者百五十余名あり余興等ありて至つて盛會なりしと云ふ。

▲石川支部　珠州郡幹事部に於ける生產扶助の方法に關しては前號にも詳報せしが尙支部よりの報告によれば同郡正院村に於ても二十余名の傳習生を募集し同郡飯田町に於て第一回第二回の修了生は自宅又は各所に工場を開き傳習生を募集し同郡木郎村は村内に一大傳習所を開催する準備をなし居り同郡大崎村は村長率先して盡力中なりと云ふ。

▲富山支部　去月十三日午後一時より赤十字社會議室に於て年賀會を開き總裁殿下の御眞影を拜し以て軍人遺族及び廢兵十八名に救護金を贈與し會員中の功勞者四十五名に感謝狀を贈與し終つて余興の音樂會あり出席者一百余名頗る盛會なりし。

▲愛知支部　去月十三日縣廳內に於て新年互禮會を開きたるが深野支部長始め會員五十名出席し互に名刺を交換を行ひ盛會なりき。

▲岐阜支部　大垣町幹事部に於ては廢兵慰藉愛への寄附の目的を以て去月十九日午後五時より大垣新町日吉座に於て音樂會を開催したるが入場人員頗る多く意外の好結果を得たりと云ふ。

▲愛知支部　伊豫郡幹事部第一回總會を十二月九日郡中町彩濱館に於て開會せり當日は天候不穩なりしにも拘はらず寄々準備を遂げ且つ熱心なる會員及遺族廢兵も多く來會し午後一時に至り會場立錐の余地なきに至れり豫定の順序を進行し午後二時閉會せり當日の出席會員は三百五十四人遺族廢兵百三人幹事十名委員二十四名來賓九名にして總數五百名なりし尙松山市幹事總會は十一月十八日午前十時開會せり來賓及び遺族廢兵七百二十名幹事部職員數八十余名總數千十余名頗る盛會にして特に遺族廢兵百五十名には槪酒折詰を饗し福引景品等を與へたれば非常に滿足せり（松山市の分は十一月廿日の本紙參照すべし。）

▲徳島支部　一月六日徳島公園[illegible]閣に於て新年互禮會を開催せり當日午前十一時開會谷口支部長新年の挨拶を述へ次に來賓古川醫學士の講話あり尙來會者一同を代表し谷口支部長夫人[illegible]代となり總裁殿下會長へ賀狀を捧呈すべき事を決定せり小林相談役の發聲にて兩陛下各殿下の万歲を三唱し一同和唱來會者相互賀禮を述べ祝盃を擧げ余興には福引等を催して頗る盛會なりき當日來會者七十六名閉會せしは午後二時なりき。

▲香川支部　新年名刺交換會を去月五日支部樓上に於て開催せり來會者百四十三名兩陛下の御眞影を拜して一同祝詞を陳べ終つて祝盃を擧げたるが茲に先たつて小野田顧問の式辭あり又音樂の余興等あり散會せしは午後四時なりき。

▲熊本支部　去る一月五日午後〇時十分より熊本縣會議場に於て熊本支部初會を開くせ今するもの支部長以下五百八十余名先つ開會を報し君が代の奏樂と共に總裁殿下の御眞影を奉拜し以て江木支部長西島評議員石原支部副長の挨拶あり支部顧問江木知事本會の事業に關する演說あり續て河內山主事の會務報告あり夫れより來賓の演說に移り長尾軍醫部長、南木大尉師、西行鐵翁師、野田師範師、順次に登壇し有益なる講話をなし了つて尾藤新也氏の講談ありて後ち福袋と菓子を配付し午後五時散會せり因に同日は縣下各郡より會員は二万百余名の多きに及び目下各郡に亘り會員募集中なるを以て續々入會申込中なれば不日多數の增員を見るべく昨年中の會費徵收方も大に好成蹟を得たりと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

梅の清水

笠間醉雨

國府津から先方、小田原から手前、何でも海岸から七八町離れて、山手の方の小高い處に、立派な瓦葺の家が見えますが、これは近頃新築された原澤伯爵家の別莊であります。して、この別莊の下の、一體に低い土地は、栗や櫟などの、がさつな雜木林で、其所には、極めて貧しい一軒の家がある。家と云つても、草葺の、軒の傾いた、柱の歪んだ、それは〳〵見るもみすぼらしい、まるで豚小屋よりも、淺間しい家ですが、これは土着の百姓河田甚之助の家で、妻のお崎の外、今年十三の娘のお梅と、八歳になつた弟の太一と、親子都合四人が住んで居ります。

甚之助の家は素から斯うではなかつた。甚之助の家は先祖から此在の豪農で、今の原澤別莊も、その隣の花園侯爵家の別莊も、それからずつと國府津の停車場への、一體の地は、みな其の所有でありましたが、甚之助の父の代から、身代がそろ〳〵傾き初め、持つてゐるだけのものは、家と云はず、畑と云はず、何も彼も殘らず他手に讓つたのでした。

不幸は是ばかりでない。甚之助は、やつと四十三歳でありますが、二三年前から烈しい僂麻質斯を患つて半身不隨。それに、妻のお崎はそこひで、まるで盲目同樣と云ふのですから、生活向の困難なことは、申すまでもないのです。それに又、甚之助は、餘病さへ併發して、日に日に重くなり、もう今日とも明日とも限らぬといふ位に迫つて來ました。かうなりますと、妻のお崎も、悲みの涙で目を痛めますから、無論、惡い方、惡い方へと傾いて行くばかり。で、甚之助は、臥床について居ながら、頻に、別莊の水が欲しいと云ひました。別莊の水とは、即ち原澤伯爵家にある清水の水で、先代から深い〳〵因緣のある名水なのです。

今しも太一は、姉の命令で、別莊へ水を貰ひに行きましたが、間もなく、ワンワと大聲を揚げて泣いて歸つて來ました。お梅は此の聲を聞いて、急躁しく戸口に迎へて、『太一、どうしたの？』と、尋ねましたが、太一は唯泣いてゐるばかり。

『あら、どうしたのだと云へばさ。』と、重ねて尋ねますると、太一は、ぼろ〳〵と湧き出る涙を右手の甲で押さへて、『あ、あの、い、犬が吠えて』……と、また泣く。『犬が吠えて？』と、お梅はちよつと眉を顰めて、『犬が吠えたら、お女中さんに左樣云へば宜いものを。』『だつて、木戸を明けて呉れないんだもの。』と、太一は涙を拭き〳〵答へる。『そんな事はない筈、……何だ彼んだと云つて、お前は可厭なんだらう。』『い、え、いやなとはない、……そして、姉さん、犬をわざ〳〵吠えさすの。』『そんなとが……』と、お梅が云ひますと、太一は透さず、『噓だと思つたら、姉さん、行つて御覽。』と、云ひましたが、お梅は聊か腹立つたやうに、『お前は、本當に仕樣がないのね、たまには一遍も汲んで來て呉れゝば宜いのに。』と、口早に云つて、太一の手から缺けた土瓶を奪ふやうに引ッ取つて、底の拔けた草履を突掛け、別莊へと急いだのでした。

お梅が別莊へ行つて見ますると、成程、木戸が締つてゐる。犬が吠えてゐる。いつも今時、木戸が締つてゐることがないが、これは實に不思議千萬。まあ、何うしたのであらう、まさか、戸を閉めて留守にしてゐるのでもなからう。と、かう考へながら、木戸をトン〳〵と叩き、『御免下さいまし。』と、云ひましたが、何の音沙汰もない。それで、二三度、戸を叩きながら、『御免下さいまし。』を繰り返しますと、今度は、足駄の音も消魂しく女中が出て來て、『何だ喧しいね、他人の所の戸を遠慮會釋なく、叩いて。』と、ぶつぶつ小言を云ッて、木戸をがらりと引き開け、いかにも邪險な目付で、『また水かね……えッ、面倒臭い。』と、云つたので、お梅は、もう、小供心にも腹が立つてならなかつたけれど、流石は伶悧なだけあつて、怒の蟲をぐッと抑へ、いかにも叮嚀に、『どうも、實に毎度お氣の毒樣で……』と、挨拶しますると、女中は、平家蟹のやうな顏をいよ〳〵角張らして、『病人の爲か何か知らぬけど、もう、今日限りて、水を汲みに來ることはお斷りだよ、……それに、此方の奧樣も被仰つた――第一、お前のやうな乞食みたいなものが、此方の御門から出入すると、此方のお名前に關はるッて。だから、もう水は今日限りだよ。』と、素氣なく云ひ放つた。

お梅の小さい胸は張り裂るばかりで、もう、今が今からも一滴の水をも貰ふまいと、かう思つたのですが、父を思ふ一心で、怺へ忍んで、漸く土瓶に一杯の水を汲み、これまでの挨拶を述べて、木戸の外へ出ました。が、それと同時に、口惜い涙が、ほろ〳〵、ほろ〳〵と止め途なく湧いて出ました。

＊

翌朝、お梅は、早く起きて背戸へ出ますると、不思議にも、古い紅梅の木の下から、滑らかな清水が湧き出て居ました。お梅は飛び立つばかり喜んで、水を汲んで見ますると、別莊の水よりも上質なので、早速、これを兩親に薦めました所、これが爲、父の僂麻質斯も、母のそこひも漸次快方に向ひ、やがて、全快の期も豫知されました。

水脈が此所に發したのでせうが、その日から別莊の水は日に日に湧かなくなつて、終ひには涸れて了ひ、唯此の、天が孝子に賜られた梅の清水だけは、盛に湧いて、後世の紀念となつてゐるさうです。

獅子のはなし

上野動物園主任　黒川義太郎

▲上野動物園　に今度濠洲から着した牝獅子が居る、それが懷姙して居ると云ふことは、皆さん新聞を讀むで御承知であらうが、この牝獅子が日本へ來てから孕むだのか、孕むで居たのが遙々日本へ來たのかは御承知あるまい。

▲前から一匹　牡獅子は居りますが、是れに配する牝獅子が居りませんので、濠洲の或る動物園へ、牝獅子の若き實物があつたら周旋をして買ひたいと頼むで置きました、所が其後電報で以て、若き牝獅子があるが買つては何うだと報せて呉れましたので、早速其方で見て善いと云ふ鑑定がついたら買つて呉れと返電をしました、其處で濠洲動物園では直ぐに其の牝獅子を買つて、濠洲通ひの

▲汽船八幡丸が　明日出發して日本に歸らうと云ふのに頼み込むで、この船に乘せて送ッて呉ました、私はそれを受取りのため船に行つて見ると、獅子の腹が膨れて乳房が一杯に張つて居る、何う見ても懷姙に相違ありませんから、船長に對つて何にか添嗇でもなかつたかと聞きますと、イエ何にもないと云ふ、添嗇がないから何時懷姙したのかは知れないが、獅子は懷姙してから

▲四月で分娩　するものでありますゆゑ、早速產所の用意を致し、一室は藁を敷き詰めて產所とし、一室は豫備室に宛て、一室は運動室と云ふ風に夫れ夫れ設備をしてこれに入れると同時に、濠洲の動物園に聞き合はせますと、其の動物園で飼養して居たのでないから能くは分らぬが、船に乘せる時に孕むで居たのに氣が着いたと云ふことであるから、この月の末頃には出產するであらうと思ひます、この獅子は至つて健康で毎日能く運動して食物だつてなか〳〵澤山に食べるのであります。

▲日本で出產　すると云ふことは、今度が始めてゞありますから、經驗がない、夫れから獅子は兒を產むだところを人に見られるのを厭やがつて、若し人に見られると其の兒を咬ひ殺すと云ふ說がありますから、板圍をして其の板に小指ほどな穴を穿けて置き、そんなことのあつた時には直ぐ隔離させる心算であります。

▲犬で育てる　と云ふと可笑いやうでありますが、外國では犬を獅子の乳母にして居ります、併し日本には其れに適するやうな犬が見附かりませんから矢張り母獅子の乳で育てさす筈であります、獅子は多胎動物で、大概二頭以上產むとのことでありますから、何うか二頭ぐらゐ產むで呉れると宜いと思つて居ります、獅子は產をして三日目に、其兒を

▲千仞の谿に　落して其の膽力を試すと云ふ話がありますが、駱駝なぞでも生まれて一晝夜ぐらゐ經つと、其兒の足を試して見まして、若し立たぬやうなことがあると、其の兒を口に咬へて再三振廻はし、終に立つことの出來るやうにします、動物にだッて、それ〳〵兒の教育法はあるものであります、獅子の代價は、一頭千五百圓位であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

過去一ヶ年の愛國婦人にて最も愛讀したるもの

▲同情　社説―第一一一號　大阪　富永才子

妾は第百十一號と十二號にものせられたる社説「同情」を最も愛讀したり、げに婦人として同情ほど美しきはあらじ、家には巨萬の富をつみ、身には錦繡の衣をまとふとも、あはれてふことを知らずば、何の光か身にそはん、情は人のためならず、おのれより不遇なる人には、ゆかりの深きと淺きとをとはず、情あつくふるまふべきとにてそと、ふかく感じたるまゝをかくなん。

▲選者曰　右を今回の第一等とす。

▲普通の勇氣　社説―第一〇一號　京都　渡邊豊子

己れは普通の勇氣と題せられたる社説を最も愛讀せり、いかに物學びぬとも、この勇氣なくては何事をかなしうべき、この頃若き人の煩悶を口にするは、をさをさこの勇氣の乏しきが故ならん、古へより良妻賢母とたゝへられたる人々は、この勇氣をこそ奮ひしなれ、己れ愚なりとはいへ、この普通の勇氣をだに心として行かば、いかで浪あらき世も渡り得ぬ事やはあると、深くも感じぬ。

▲母より受たる教訓　論叢―第一〇〇號　埼玉　水野淑子

母よりうけし教訓てふ各名家の御物語は深くも我心を動かして、爾後人に語るにも我心を勵すにも唯一の教訓とはなしつ、誠や善き人をえんとせば善き家庭を作るべく、善き家庭は又決して心なき母によりて求むべからず、あはれ我等もいかで女と生れし甲斐には、人らしき人を作りて世の爲につくさばやなど思ふにつけても、智は磨くべし德は養ふべき物ぞと、物學ぶにも一しほの興を覺えつ。

▲相思曲　江戸靜川―第一〇六號　岡山　西村てふ子

各地に奮戰して「敵の陣地に肉薄し、屍は山を築き、流血川をなせ！」常時を思ひ出ては、げに琵琶彈く手もやみなん、かゝる勇士の境遇を慰むる人の心やいかに、世には主人公の加きあはれの人いくたりか、思へば同情の涙たえがたし、吾等今平和第二の新年を迎ふるも、皆武士の立てしいさをしの賜なり、いで國の爲め不具となりし人を慰めばやと。

▲東西名婦傳　史傳―各號　東京　中隈富士子

是こそはと取立て申さんは惜しき程、いづれの欄もとりどりに面白く愛讀致し候、されどしひて申さば我は東西名婦傳をこよなき物に存じ候、こを讀みもて行く時は其往時の名婦が面影の偲ばれて、さながら我身は咲き匂ふ梅花のもとに立ち居るがごとおのづと心潔らかに氣高くなるを覺え候、能く〳〵味ひ見所を學びなば、日常婦人が家庭訓とし、精神修養上よき教へ草ならんかと存じ候。

▲枯れ葉　岩野泡鳴―第一一六號　青森　茂呂その子

泡鳴先生の新詩「枯れ葉」一編、如何に妾が愛讀したるよ、句中靈魂の存在より、無常、別離、榮枯盛衰、過去、現在、未來等を說き、科學あり哲學あり、僅々八十の文字、殆とよく人生を歌ひ盡せり、若し夫れ風淋しき夕、獨空林に徜徉ふて、試に其一節を誦せんか、蝶花の春、青葉の夏、紅葉の秋、四季の變遷、交々に偲ばれて、悲觀となり樂觀となり、恍として更に、大悟の道に入る如き感あるにあらずや、嗚呼「枯れ葉」一編實に句々皆魄はありける、

▲大工のおばさん　社説―第九八號　群馬　伏島たき子

數々の尊き教へ草を身につみて、實踐躬行せば、所謂廿世紀の婦人として、いな世界の日本婦人としてさまではづかしからぬ程にならん、されば、そは月に向ひ手をのべて取らんとあせるが如き事、さるが中にも、こゝち群雲たちおほふ大空に一點の曙光を見とめえたる心地せられしは、「大工のおばさん」にこそ。かゝる人の行は己のやうなる山里の小婦なればとて、習ひてえせぬ事よもあるまじと思はるればなり。

▲苦勞さす可し　社説―第一一四號　山形　阿部さゐ子

同情は、誠と共に、人生の一大要素たり、さばれ如何に憐愍の心厚くとも、其場所に立ちて苦勞せざれば、同情をよする心も自ら淺かるべく、又昨日の淵も、今日は瀬となる變りやすき世に、もし萬一にも、不幸に遭遇せば、如何ともせん術なく、遂に路頭に彷徨ふに至るべし、苦勞して後こそ、他を思ひやる心も深く、不幸にも打勝つを得、眞に勤勉の心も出來めれ、と自ら思ひ、常に愛讀してやまず。

▲大工のおばさん　社説―第九八號　福岡　松村壽賀子

數多有益なる記事の中に、ひとしほ深く感ぜしは、大工のおばさんなりき、げに、心の美とはかゝる人の事ならんかし、名を得んための慈善にもあらず、稱揚せられんための行にもあらず、只心の自然に從ひてなすのみ、例へ學識はあらずとも、かゝる善良厚德なる婦人によりて成れる家庭こそ、如何に淸く樂しき事ならめ。

▲苦勞さす可し　社説―第一一四號　京都　花輪余志野

すぎし一歳の中此文の林に咲匂ひたる言葉の花に何はあれと、己れはわきて社説を見るを悦びたり、中にも「苦勞さすへし」てふ一節を讀て我日頃の感慨を遺憾なく社會に示し求められたる嬉しさに幾十度くりかへしつ、今日の如き生ぬるき遣方にては、○○○○○○○○○○○○○の一句強く胸にあたりて「見む人よとはに忘れそ此文の世に獻へたる花の言の葉」と望むまでもなく、好果は必ずあらはれて實となり出へし。

▲苦勞さす可し　社説―第一一四號　青森　吉田やす子

雨多き丘の上に虹追て戯れし昔ぞ懐しき、今は苦勞を悟りぬ、それを逃れんとして谿間に下り、峰を攀ち至る處心に願ふ理想の臨を呼びつ、吾それを風に抱き、流れに聞きぬ、さるに皆想像の影にて有き、小川の傍り愁い姿して行く水に、糸柳の綠葉披落し、其の一ッ毎、種々と苦勞の蹤を流しぬ、聽や吾も森蔭深く榾火くべて手をぞかざしける、牧守を羨みし心の苦しかりしよ、あな醒ばしの曙光は苦勞てふ夜の帷を掲げてぞ仰がんか。

新体詩

▲乘合船（三等）　秋田　高橋登美子

岸に繋げる主なき小舟
　わしは解かうよその纜を
主はさゝんせその棹を
　たとへ海には波が立ち
風荒れやうが二人して
　島の月見て歸らんに
憚かる人もないぢやまで
　ぬしは濱邊の濱そだち
わたしや大江戸の都人
　たつたこの夏見たばかり

▲星華（三等）　名古屋　名取照子

こよひよき夜と久方の
　天の宮ゐに宴けして
とるともし火の數々や
　みたれてにほふ星の花

▲暗香　青森　藤原里子

利鎌の月に肌寒う
　春の思ひを包む袖
奇しき微妙の暗香に
　夢を呼ひつゝ歩みよる
罪なき少女戀知りて
　胸の血汐は湧返り
詩魂迷ふ梅の園
　永久に醉へよと花息吹

▲羅宇屋　青森　茂呂その子

氷雨する、町の寂寥、
　朝寒う、羅宇や煙管と、
肺絞る、皺枯の聲、
　イむや、とある軒の端、
燐棒を、弓杖にして、
　老の腰、暫時と息ふ、
そと開く、意氣な格子戸、
　立ち出づる三十年增、
撫で揚げつ、崩くたれの髮、
　帶緩う、しだらなき姿、
昨夕一夜、誰が子泣かせし、
　鬼の手の、苛責の笞、
へし折れし、長らの煙管、
　投げ出して、それよと賴む、
首搖すり、翁は嘲む、
　此の煙管、人打つ爲か、
よしさらば、罪の羅宇竹、
　我は賣らじと、空嘯きぬ、

▲北斗星　長崎　朝長きち子

駱駝の喘ぎ疲びきて
　西も東もわかぬなり
空にかゞやく北斗星
　靈の日ともや賴まるゝ

悼荒瀨千勢子君

明治四十年一月二日、こゝに慶度き平和第二年の新春を迎えて、人は屠蘇に醉ひ、追羽子に、歌加留多に、歡樂の清興盡くる所を知らざるの時に於て、悲しい哉荒瀨千勢子の君は、春の淡雪脆くも消えて、永き眠りに入り給ひぬ。

君の初めて吾が愛國婦人の募りに應じて詠歌を寄せられたるは、昨年五月廿日、愛國婦人會總會の當日發刊せる「愛國婦人總會」の題にて

　くれなゐの心の綱をより合せ
　　たゆます盡せやまと姫百合

と云へるにてありき、君は單に吾が愛國婦人の寄稿家たるのみならず、會員として其の詠出したる歌の意の如く、國の爲めに盡さるゝ所ありたりき、また最後の詠としては、本年一月一日發刊「新年」の題下に

　大空の雲になびける民くさの
　　けむり長閑に年立ちにけり

と云ふにありき、而もこの和歌の掲出せられたる愛國婦人は、君終に見ることなくして逝かれたり、憾み多きことにこそ。

また昨夏「夏の月」と題し

　夏をよそなる川つらのやと
　　よる波のかすさへ見えてすむ月の

なる一首あり、淸らかなること玉の如く、脫塵の風趣ありしことは、倶にこの歌壇に遊ばれたる諸姉の熟知せらるゝところ、以て君が詩想の一端をうかゞふに足らんか。

而して君は和歌のみならず、昨夏「銷夏號」の發刊に際しては、夏の簡易なる小兒寢衣考案の募りに應じて、第二等に當選せられたることあり、君の考案になる小兒寢衣の、今用ひられつゝある家庭尠しとなからざらん。

斯くして君の名は我が愛國婦人の紙上毎に見る所なりしも、今や永久に歸らぬ人となり給ひぬ。こゝに聊か生前の事どもを記して、同じ歌壇に遊ばれたる諸姉と共に君を忘れざるの紀念とし、哀悼の意を表す。（靜川）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

従四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

たんせきに　淺田飴　空腹に　かし
長藥　にて　しロ甘　し
本品全國到る處の藥店に販賣す
本家　東京神田鍛治町　大阪北久寳寺町　堀内伊太郎

普通　臨床　看病法　正價卅錢　郵税四錢
通俗　實習救急法　竹中醫學士閲　以雄編
實用繃帶學　橋園七十餘小池軍醫著　價五十五錢　郵税四錢
家庭衛生新書　岡部醫士著　正價四十五錢　郵税四錢
最近之肺結核療法　北里博士閲　柴山學士著　八十錢　税六錢
日本大家處方新書　河野敏人著　價壹圓廿錢　郵税十錢
醫學博士三宅秀　軍醫總監石黒忠悳校閲　按摩鍼灸學　官既學校奥村教授著　一圓五十錢　郵税十錢
醫學博士大澤謙二序　北里博士閲　學校衛生講話材料　關以雄著　價廿五錢　郵税二錢
醫學士馬島珪之助先生閲　療病新書　關藤治郎先生著　處方十六錢　調劑税十錢　正價四錢
發行所　神田區鍛治町（電本九四九）誠之堂

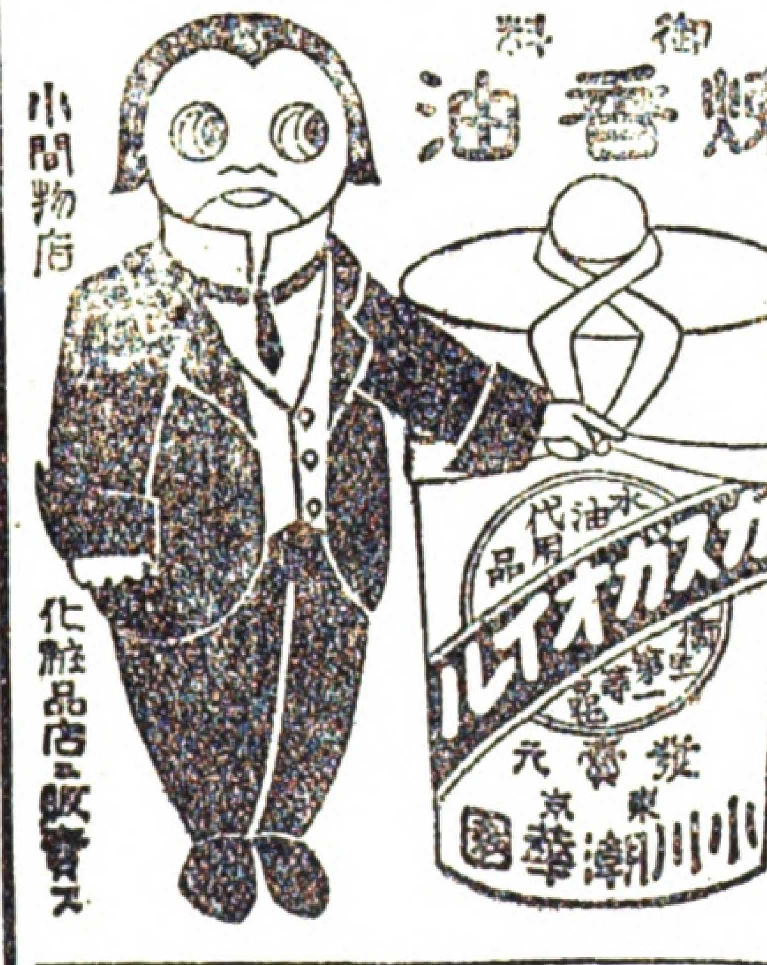
文學士　下田次郎氏編輯　女子教育　二月一日發行　第四卷第二號　一部金十錢
發行所　東京市神田區錦町一丁目　明治書院

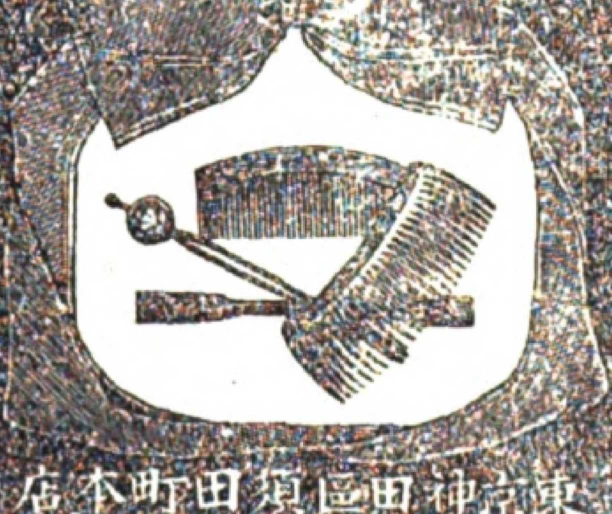
最上清酒

大日本優等清酒　御進物用　美麗箱入　壜詰　世界長
世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり
世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり
壜詰　一升入　四合入　二合入　一合入の四種
發賣元　東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）　高橋商店　電話浪花一五六一番

東京神田小川町壹番地
金銀寳石細工　西洋小間物化粧品
金石舎美術店
電話本局六八一番

めをぬぐし　かいぎ

御料　煉香油
寶顯紳士淑女愛用　カスガオイル

小間物店　化粧品店ニ販賣ス

東京　小間物　三井屋商店
新橋際　博品館内支店
小川町通　東明舘内支店
帝國五二館内支店
東京神田區須田町本店　電話本局一七六三番


正札　價引なし

營業品目　特許竈各種　特許ランビキ　特許水枕　特許据風呂　實用暖爐　鍋釜　品々
日本橋區蠣殻町二丁目十五番地　神田泉町通松永町十八　名和本支店（電浪二二七七番）

懷中要藥　清心丹

御勅題模様新年の松　發賣
ゆきあひ　神田杢の手拭
本店　神田小川町通り（電話本局二八五三）
出店　新橋博品館階上　横濱出張店横濱館　赤坂田町五丁目支店

東京市神田區かぢ町　電話本局二四九番　菊屋總本店　分店本郷三丁目
楽器用附属品各種　特製吉田糸一式　唐琴三味線胡弓抹樂器

新聞の新聞

今日、現存せる婦人團體中其の範圍最も廣く、其の勢力最も大なるは、愛國婦人會の一團體と爲す、官民老少を通じて、有らゆる地方と階級との婦女子を包含し其の會合も規則立ちて永續しつゝあり、新年宴會などの行はるゝも、此の愛國婦人會の支部を多しと爲す者の如し、斯くばかり範圍の廣く勢力の大なる婦人會あるを幸ひに、其を善導し利用して、都ろしき効果を擧げしめんは、愉快の事業と謂ふ可く、其の會合をして無意味なる儀式的に終らしめざらんことを期し度き者なり。

婦風會と云ひ、同窓會と云ひ、將校夫人會と云ひ、皆特殊の性質と目的とを有して、時節に關係なく、平日講究する所あるなるべし、而も愛國婦人會に至りては其創設戰時に在り、老いも少きも、血湧き情燃して、何物をも犧牲にするを厭はざりし戰爭の爲に、婦人も應分の力を盡さんとて起りし者なり、彼等の事業は、軍資供給の上にも、軍隊慰藉の上にも、甚深なる効果ありしは、人の認むる所たり、而して戰時に戰爭の爲に起りし愛國婦人會は、戰後平和の今日將に何等をかさんとする、戰時に於てこそ、血も湧き情も熱したれ戰後平和の時節と爲りては、氣緩み心怠りて、何時となく歡樂に流れゆくは人情の習なり、見よや虛榮を尙び射倖を好み驕奢に溺れつゝある現在の風潮は、金の鎖の時計をも提供して軍資を補はんとせし婦民とも見えざるに非ずや、婦人の性は柔にして弱、能く堪へ難く忍びて、永く初志を持す、愛國婦人會も亦然らん而して戰後の今日も、戰時の初志を守りて國家に盡さんとすればこそ、季節每の會合も規則立て繼續すらめ然れども單に無意味なる儀式的會合を以て能事畢れりと爲すは非なり、戰時に繼續したる戰後の事業に盡して、以て其の後を善くすると共に、他日に益する所なかる可らず、生者に行賞あり、廢兵に癈兵院あり、死者及び遺族に弔恤ある今日、亦遺憾なきが如しと雖も、國家の給與に限りあり、死者の階級に高卑ありて遺族の鰥寡孤獨に飢寒を叫ぶ者なきにあらし、溫かき同情を以て存問慰恤の道を講ずるが如き、豈婦人の手に待つ者に非ずや、戰時に於ては、知ると知らざるとに論なく、出征家族の慰問に奔走したりし婦女子が、平和と爲りては憫むべき戰死者の遺族をだに見向きもやらぬが如きは、終始あるべき婦人事業にあらず、吾人は近日將校將官の行賞を視て、赫赫たる功勳に對する賞賜としては、左もあるべきことゝ思ひつゝ、一面には戰死者の遺族に思ひ及びて、同情を禁ぜず、國家の弔恤甚だ厚くして飢寒の憂なくとも、時々存恤を加ふるは、他日戰士をして名譽の死に赴かしめ易き所以なり。

吾人の婦人會に望む所の者は、獨り此の一事に限らず又愛國婦人會に限らず、婦女子の各團體を通じて一の要望あり、戰後に覺悟せし儉勤の初志を堅持して男子を刺擊し、以て社會の風紀を矯正せんこと是れなり、今や世を擧げて浮華に流れんとす、而して柔弱堅忍なる婦人の天性能く戰時儉勤の初志を確守して、其の躬を修むるに努めば、効果必ず觀る可き者あらん、日本婦人の特長を發揮するは此の時に在り。

（一月十五日、大阪朝日社說）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佐々木信綱氏選　梅

天

小窓あけて雪の遠山見つゝをれは朝東風ゆるく梅かをり來ぬ　岡山　武田須磨子

▲評曰　眞白なる遠山遙に見はるかされて、園生の梅咲き匂ふらむ家あるじ、うらやましともうらやまし。

地

手折らんの心はうせて鶯の淸き音を聞く梅の花園　函館　安藤喜美子

▲評曰　鶯の聲に聞き入りて、めてのあまりの罪犯さむとせしを忘れはてたるやさしき心ばへなりや。

人

床しくも文よむ聲のもるゝ哉梅ケ香淸く匂ふ垣根に　京都　花輪余志野

▲評曰　垣れには好文木匂へり窓の内には讀書の聲きこゆ此家あるじはたゆかしう思ひやらる

○秀逸

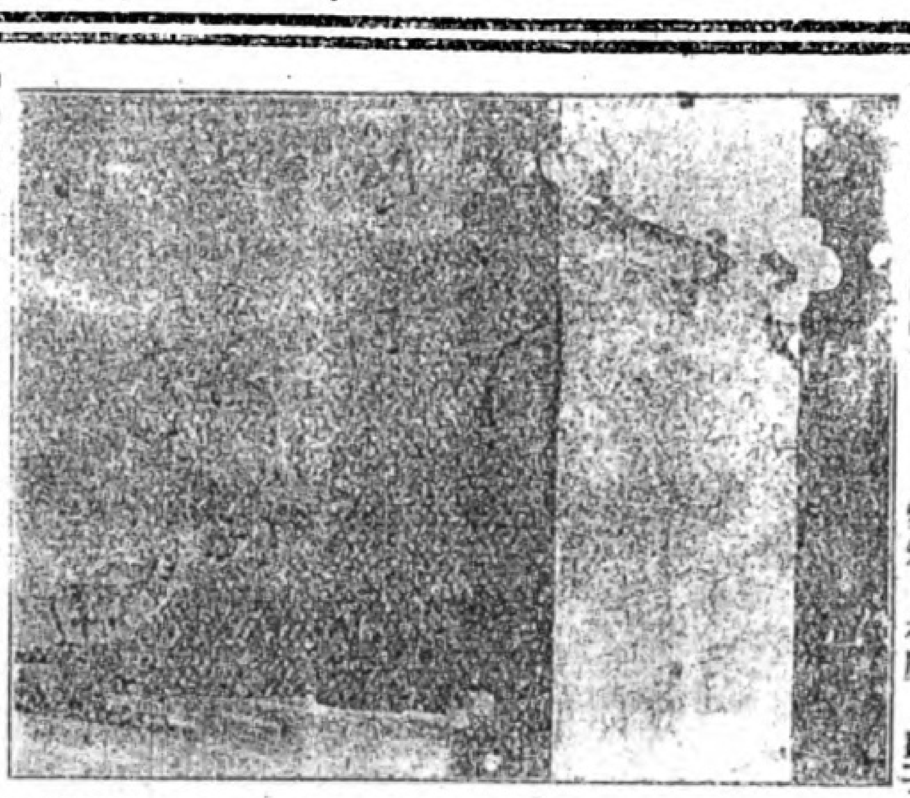
夕月夜そこともわかすさまよへは琴の音ゆかし紅梅の宿　長岡　阿部秀子

雪の内にほゝゑみそめし梅の花世は春來ぬといつか知りけむ　東京　土師利根子

おもひ出のしら梅月夜窓あけてひとりなかむるしら梅月夜　名古屋　名取照子

月おほろ小鼓もるゝ屋敷町ゆかし梅か香花は見えねと　松山　江戸譽子

おのつから雪をはらひておきかへる竹むら見れは梅咲にけり　愛知　木原貞子



窓なはくゝむ欄にうら〳〵と朝日にほひて鉢の梅さく　埼玉　水野潔子

新むろに友をまれかん軒近くうゑにし梅も咲き出にけり　群馬　伏島たき子

ふりつみし昨日の雪のおもかけを梢に見せて咲める梅かな　函館　龍岡とし子

窓にてる月美くしみ軒の梅のすみゑのかけも匂ふとそ思ふ　津　中島千萬子

鶯にしらせてしかな我庭の梅のかた枝はゑみそめにけり　京都　山本靜江

○甲

おくれしと霜をしのぎてほゝゑめる若木の梅の雄々しくもあるか　東京　中山正子

霜雪にたわまてゑめる白梅のきよきをおのか心ともかな　津　小島駒子

鶯のねくらの夢そおもはるゝおほろ月夜に梅かをるなり　京都　古川よね子

朝風は花の使かれやの戸をあくれは匂ふ軒の梅か香　青森　鈴木はぎ子

おほろ夜の月なつかしみをりたては庭木の梅の香もれくる　大阪　十合貫榮子

梅の花咲くやいつれの宿ならん軒端をすくる風かをるなり　山梨　蘆澤露子

春寒き梅の林の朝あけに人のすさめぬ香を愛てしかな　青森　夜呂その子

我庵の一木の梅の咲しよりおほろ月夜も香に匂ひけり　東京　麻生敏子

文机のあたりはかりは春めきて小瓶ににほふ梅の一枝　福井　大月てる子

かんはしや梅の林にわけ入れは花の吹雪は面うつなり　靜岡　大高ふみ子

家つとに手折りてましをたゝ一枝われにはゆるせ梅の花守　山口　木田竹子

道もせの猿かけいはら踏分けて今み盛りの梅手折らはや　三重　長井民子

北の海はまた肌寒きこの春に梅のさかりと月ケ瀬の文　北海道　足利つゆ子

晴れ渡るそらに知られぬ白梅の匂ふと見ゆる梅の下風　京都　山本收子

文箱にもかをりをこめて我友のをりておこせし梅の一枝　愛知　市橋幾子

霜にたへ雪をも凌き咲きそめて香もめてたき梅にそありける　福井　渡邊貞子

雪にたへ霜を凌きてさく梅はよろつの花のさきかけにして　福岡　松村壽賀子

梅の花咲くや梅津の川風に舟人いかに袖かをるらむ　京都　淸水今子

白雪にうつもれなから春來ぬと匂ふや梅の操なるらん　宮崎　野崎えも子

あたゝかき國のたよりに花一つこほれて宿の梅思ふかな　青森　吉田安子

少女子かはるきの袖もにほふなり今朝咲きいてし梅の初花　石川　廣野すて子

吾子ゆゑあたへなんやの梅の花手折る吾手のいとためらひぬ　函館　安藤文子

白梅を手折りて瓶にさす姬のみ名は紅梅ゆかしけ詣し　愛媛　高橋魁榮

しら雪のふる枝の梅も新しき年をむかへて笑みそめにけり　山形　三用ゑい子

人去つて枝月の園生の梅の花かをりいよいよ廣まりにけり　東京　上野芳子

おくる香にえりを正して通りけりまうけの席の梅のいけ花　長野　臼田いち子

鶯の聲めつらしみ窓の戸を開けは香る梅の初花　福島　橫川雛子

うくひすの初音もいまたきかぬまにはや笑みそめつ紅梅の花　京都　渡邊時子

たらちねの親の御墓の垣のうちに昔忘れす匂ふ梅か枝　東京　紅村たまき

亡き父の手植の梅は咲きそめぬ折りて一枝を母にさゝけん　岡山　谷とめ子

吹く風に月影さへもかをるなり梅さく宿の春のおほろ夜　愛知　湯淺とよ子

川岸の梅かをる庭のあつまやにかたらふ人やのとけかるらん　東京　小島幹子

霜雪にうつもれなから春をまちてにほふや梅のみさをなるらん　宮崎　山下武眞子

都なる友か文より紅梅のかをり床しくこほれ出にけり　岩手　佐藤米子

天津日のめくみを受けてあたゝかき軒はの梅はゑみそめにけり　愛知　橫井初子

我宿の日のたてぬきに梅咲きぬ鶯來鳴け我は歌よまん　三重　西田數子

第十四作歌募集	第九回卅文短文募集	第六回廿俳句募集	第九回新體詩募集
題	題　崇拜する現代人物（一人）	題　蝶	題　隨意
選者　佐々木信綱氏	選者　編輯局同人	選者　編輯局同人	選者　編輯局同人
規定　一人一首用紙繪葉書	規定　總振カナ附用紙葉書	規定　一人一句用紙繪葉書	規定　短きもの用紙葉書
優等の作は三月五日發行の本紙上にて披露すべし	優等の作は三月五日發行の本紙上にて披露すべし	優等の作は三月五日發行の本紙上にて披露すべし	優等の作は三月五日發行の本紙上にて披露すべし

締切二月廿日限り

家に待つ人しなけれは鶯と相やとりせん梅のしたかけ　兵庫　中村益子

きさらきの朝日つめたき窓の戸に香りそめたる梅の花　長崎　林田鹿子

物思ふ病む子たゝすむ病院の窓の白梅風なきに散る　群馬　木暮千代子

鶯の枝うつりする羽風にも匂ひこほるゝ梅の下かけ　岡山　辻まさ子

白雪のふるとしなから咲き出てさもゑましけににほふ梅かな　東京　渡邊仙子

先ひとのこゝろを春になすものは雪の垣根の梅の初花　青森　笹田正野

古郷は早や梅咲くと妹の文のたよりに花まき添へて　京都　堀ちくさ

今年はと待ちし若木の梅か枝に三つ四つかをる花そうれしき　山口　米田貞節子

つま木おふ賤の女さへもたゝすめり月もにほへる梅の花影　鎌倉　中限富士子

そのまゝを折らんとすれはちりかゝる雪さへにほふ梅の一枝　福岡　蜂谷より子

ほめられて乞はるゝまゝにの梅はな一枝一枝と折り過しけり　甲府　名取正代子

鶯も來なきてうれしみんなみの垣根の梅は今さかりなり　京都　磯谷霜子

うくひすのおとつれきゝし朝よりほころひそめぬ庭のしら梅　埼玉　小宮とめ子

梅の花もろ手にもちて歸る子の袖もかをりにみちてけるかな　岡山　淸水梅子

西隣のはたや軒の梅ケ枝や梭の音毎に花の香ゆらく　青森　藤原里子

▲評曰　いひさまはいまたしけれと配合新らし

○乙

やみませる友に一枝おくらはや匂ひえならぬ園の白梅　大阪　富永才子

さま〳〵の花に先たつ梅の花匂ふたもとに春風そふく　兵庫　下岡松枝

降りつもる雪をおかして咲く梅の姿そいとも床しかりける　函館　内山郁子

花笠に雪はふれとも梅か香をつゝみかねてや風の匂へる　仙臺　阿部すゞ子

月影は西に[illegible]梅しろ〳〵とあけ渡りけり　東京　山口理勢子

[illegible]手枕ちかく香に匂ひけり　三重　玉井光榮

榮え行く御世の[illegible]ゑみそめし四方の[illegible]　長崎　葛原梅香

[illegible]

名譽の預選者　名取正代子　謹

[illegible]

俳句　初午

天　初午や草鞋かけなる女連　館林　石原みて子

地　初午や常には開けぬ御錠口　東京　赤澤英子

人　初午や假に出來し村芝居　東京　彥坂たき子

十客

初午や未た春めかぬ遊ひぶり　廣島　小田信子

土地に居て今日知る宮や午祭り　東京　秋元小菊

初午や乘替へ急く汽車の客　靜岡　萩原さだ子

初午の鳥居新し年ゆたか　愛知　市橋幾子

初午や皆福ほしき下心　京都　古川よね子

初午や人と土偶との稻荷道　京都　松岡りよ子

初午や天保かちの古太鼓　北海道　小川はる子

初午や松の奥なる朱の華表　青森　西原里子

初午や暮れて泊りし乳母か宿　京都　今尾富子

初午の鳥居くゝれは信者詣　名古屋　梅村八代子

○

初午の花や伏見の京女郞　三重　南たつ子

初午や稻荷につゝく花の袖　京都　渡邊豐子

初午の鈴賑はしき朝詣　秋田　西村智賀子

初午や村長の子の舞ひ上手

初午や何を願ひの紅頭巾

初午や手相も見る辻八卦

初午や今日を主とし作男

初午や伏見へ掛けし京の旅

初午や赤旗つゝく梅の道

初午や婆々か茶店の繪行燈

初午や太鼓の音も新らしき

[illegible]

初午や幟は妹か縫ひ始め

初午や太鼓竹馬赤幟

初午やむかしなつかし破太鼓

[illegible]

初午やいとにきはしき村芝居

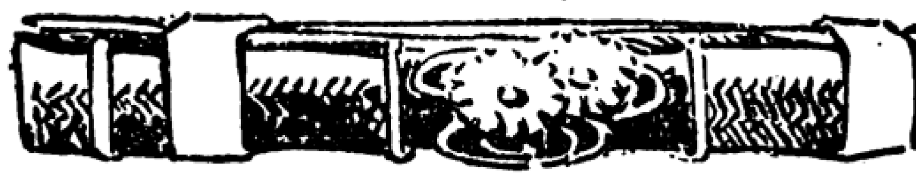
[illegible]

今後は御投稿に御住所明記なき時は遺憾なから沒書致し候間何卒御明記御忘れなきやう致し度候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京橋銀座一丁目　本村屋

美術貴金屬袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
長電話浪花二五六九番



醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門
最上醬油
キハク印
於鐵路博覽會　名譽大賞牌受領
キハク印醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか壮あちのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます
東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七四

調劑が正確迅速にして藥品の純良なるは藥局の特色なり
醫家處方調劑
東京淺草橋際茅町四ツ角
尾澤良藏藥局
藥局主任藥劑師　船橋安太郎　電話下谷千六百〇二番

新刊批評

○農村の幸福法　手島益雄著　本郷新公論社　一八五ページ　定價三十錢

歐洲著名の教育家ヘスタロツチ氏のレナルト、アンド、ガートルードと題して農民の生活を書かれたるを現時久保天隨氏譯して『醉人の妻』と稱するあり他には農民の教育に就て書かれたるもの少し本書は農民の自治に重きを置き全編を上下兩編に分ち上編には農村自治の模範たる樣の例を示し下編には一般に家政に必要なる心得を舉げたれば都會の人士と雖も閑談脊の如き家庭を希望せば一讀以て參考に供すべし

○女子と修養　鈴木祿助著　神田昌平堂　二三五ページ　定價三十錢

本書は著者が岡山高等女學校の教職を辭するに當り紀念の爲め同校生徒に示さんが爲め著はれたるにて專ら精神修養を基として女子の生活上より結婚問題及び教育等に關する事項を蒐錄しあり流石に經驗家の言、大に味ふべし

○新婦の心得　三樹女史譯　日本橋大倉書店　三二一ページ　定價五十錢

本書は英國のチエバセー博士の原著を譯したるにて文明國新婦の心得べき衣食、衛生、分娩、育兒等の諸要項を細大となく平易通俗に叙述しあり

○間取裝飾法　齋藤兵次郎著　神田信友堂　一七〇ページ圖入　定價一圓八十錢

室内裝飾は其方法によりて人格を高くも又卑しくもするものにて社會交際上極めて必要なるものなり本書は日本家屋の間取と其裝飾の方法に關する要領を示し次に幾多名士の邸宅、挿圖及び假數斷等を添へありて極めて必要缺くべからざるものとして世の夫人方に推選す

○如何にして生活すべきか　笹川正雄譯　本郷内外出版協會　三一一ページ　定價五十錢

本書は米國のロバート、グラント氏の原著を譯せしにて一家經濟の處理法より初めて家庭の教育及び其職業の選擇法等を丁寧に説明し附錄として家庭幸福法を添へあり

○食養大全　岡崎内藏松著　京橋日就社　四六四ページ　定價一圓

人に飲食營養の必要なる恰も植物の肥料に於けるが如く其料則ち種族によりて其培肥を異にす人亦た然り腦を使ふ人、身體を働かす人、其職業によりて營養を異にするの要あり本書は家庭[illegible]に發さんが爲め食品の營養と經濟に重きを置き[illegible]、野菜、魚等の成分を擧げ其調理法を示し附錄に宴會の作法禁物等を添へありて一家の主婦には好伴侶なり

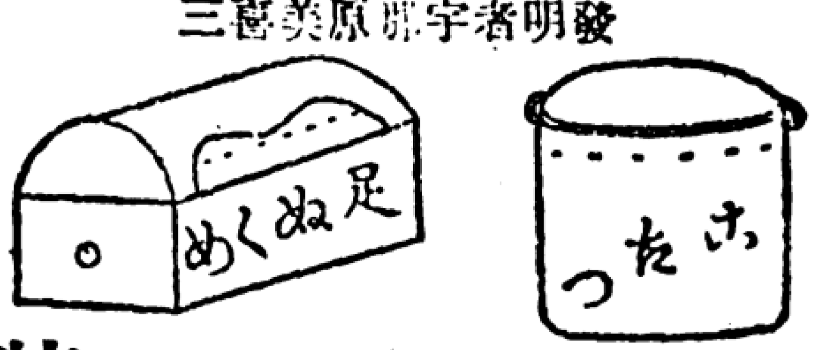
○現代女傑の解剖　九百星外史著　京橋万象堂　一〇五ページ　定價三十錢

本書は題名の如く現時の女傑、下田歌子、鳩山春子、[illegible]、福田英子、奥村五百子、與謝野晶子、川上貞奴の七女史の經歷を忌憚なく叙述しありて面白き讀物なり女史等今日の地位に至るの苦心を注意して讀まば大に益する所あらん

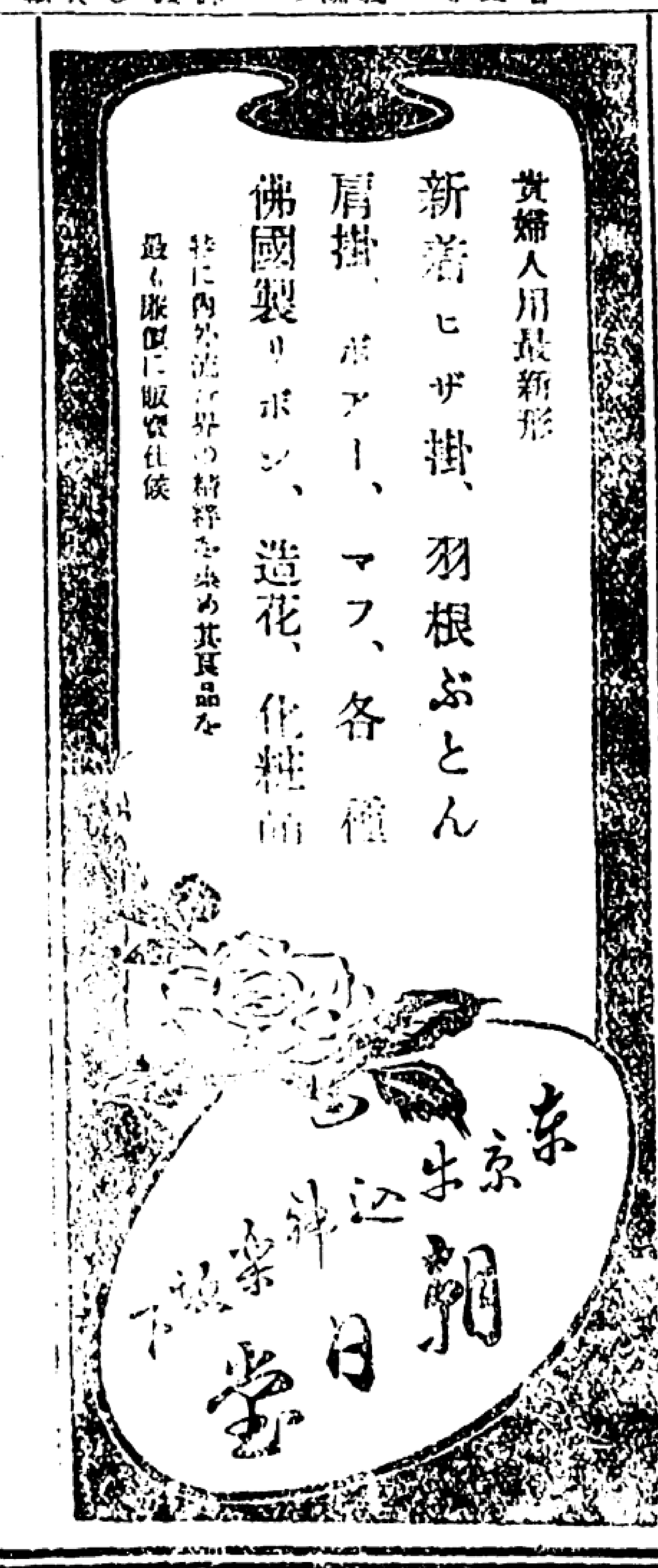
○物產唱歌　實業教育會編　神田國光堂　五三ページ　定價七錢

本書は地理教育の一端として教育會の編纂になりしものにて田村虎藏氏作曲して刊行せしにて我國と各地の產物を讀み込みあり知らず知らず土地と其產物を覺へて好き讀物なり

不思議のあんか
定價　並一圓二十錢　中一圓四十錢　上一圓七十錢　特製一圓七十錢（荷造送料一圓三十錢　郵便代用一圓増）地方注文は前金の外送附せず
允專賣特許請
火も湯もいらぬ
大阪府立病院御買入使用證明附
發明者宇那原美喜三



一名德用こたつ
一火を用ひざれば火災の患ひなく夜中に消え又は損じると更に無し
一熱度は御好み次第百五十度位迄は御隨意なり
一衛生上有効無害なりと各大醫の證明あり
一病院旅館遊廓又は寄宿人足人小兒等には特に必要良器なり子宮病の人のノボセ症にてアンカを用ひられぬ人其他カラダちわき人本器を用ゆれば有効確實なり
一足温め何れも火氣を用ひざれば銀行會社和船諸官衙又は汽車汽船馬車人力車等旅行用の良器なり
特約販賣望の人は特に御相談に應ず
（詳細なる定價表入用の人は郵券二錢送れ）
製造發賣元　東京市日本橋區青物町三十番地　宇那原支店
京橋區樋町四　數島屋　本郷區東竹町九　日の出販賣部
一手特約販賣店　本郷區根津藍染町十　盛美堂　横濱眞砂町四丁目　櫻井商店
牛込區上宮比町一番地　尾澤豐太郎商店
一度入れば四ヶ月熱す



種々店内に陳列致し置き候間御一覧被下候樣奉希上候
御用の節は電話又は（ハガキ）にて申越
御報知へば直ちに店員罷伺ひ申上べく候
東京市神田區須田町六番地
中村時計店
電話本局一〇九〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹸は高貴に愛すべき麝香なる

（麝香石鹸）ミレスの香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体は元より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は腹部としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す

○（定價大形廿錢 小形拾錢）（熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり）

近來類似品有「ラクダ印」ご井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地 芳香藥舗開發 井上太兵衛

内外國博覽會共進會ニ於テ金銀賞牌數箇ヲ受領ス

花王石鹸は化粧、衛生、經濟を兼備せし家庭用の石鹸として社會に高評を博しつゝあり

本舗 東京馬喰町 長瀨富郎 電話浪花三番

CHEMISTSOAP ケミスト石鹸

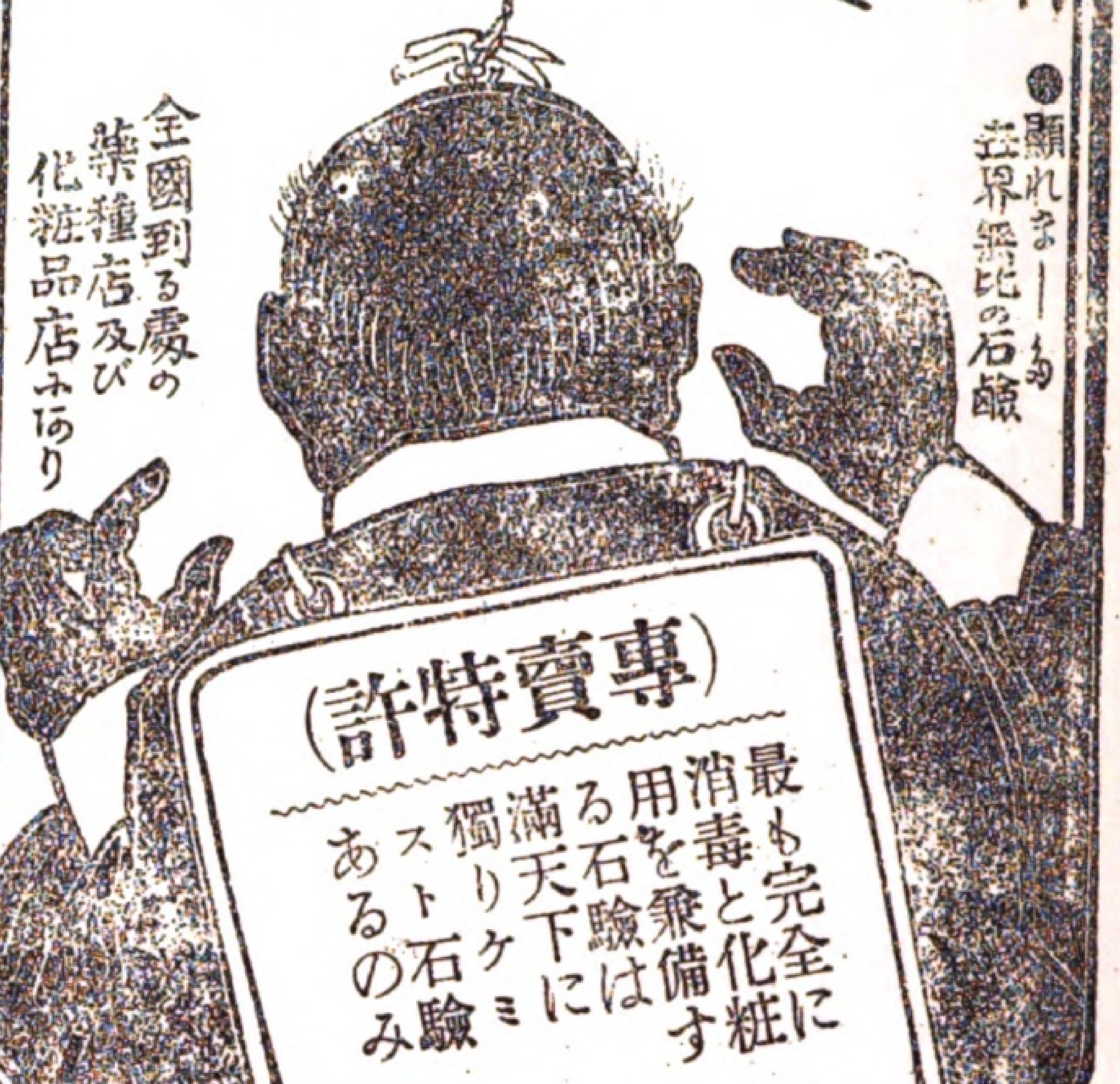
（衛生家の一日も欠く可からざるもの）

御試用の上誌品の特長を知り給へ

●化粧料 ●消毒用

●類れまーる世界無比の石鹸

全國到る處の藥種店及び化粧品店にあり



（專賣特許）

最も完全に消毒と化粧用を兼備す満天下に於て獨りケミスト石鹸あるのみ

發賣元 島久商店 東京市日本橋區本町四丁目 長電話本局（四九一、三〇一八）

男女 ちゞれくせ毛は何程の難毛にても直に根本的全治するの奇術を郵券封入申込の同患者に無料教示し醤て美髪にして差上げます

東京本郷區丸山福山町 岩阪澄子

製造元 東京芝 胡蝶園

東京南鍋町化粧品問屋

發賣元 丸見屋商店 日本橋區橘町四丁目 電話浪花四四八番

畏き邊りの御料に召させ給ふ高貴御化粧料 完全無鉛

御料 御園白粉

わり製 御園白粉

水製 御園白粉

とふ製 御園白粉

高等化粧水 御園とぎ水

洋式化粧 御園クリーム

手軽ふき 御園打白粉

濃厚化粧水 四季の花

にせ物あり御注意

最上醤油元祖

上

○宮内省御用達也

○開業二百六十三年

○品質の吟味嚴重也

○風味他品に超絶す

○日本一の釀造高也

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社（振替貯金番號五〇二一）

白ゆり白粉は東京市内に賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ最優等無毒の逸品なり

東京本所 井手製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洋食器具類一式

商品目錄進呈

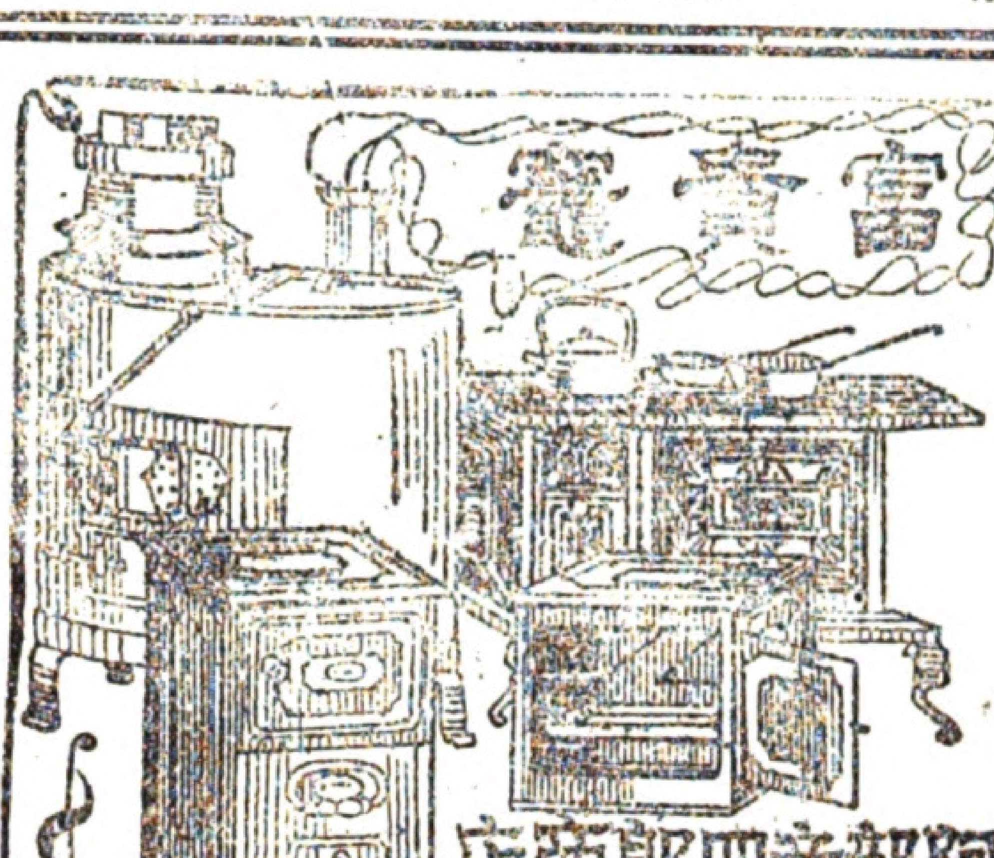
特許 輕便料理ストーブ 一名改良テンピは

輕便で完全に料理ストーブの効用を爲す

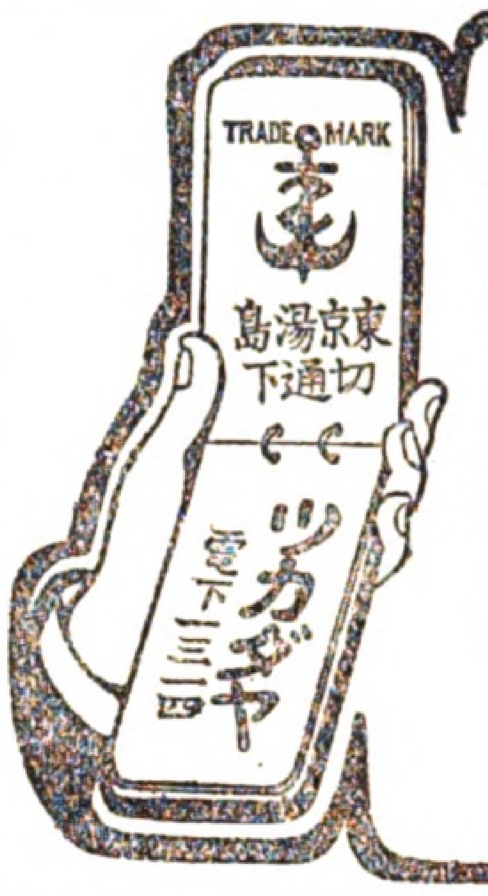
實用新案テンピ 金貳圓參拾錢　特許テンピ小金四圓五拾錢　大金六圓

凱旋紀念 五二共進會に於て

金牌受領



阿部彥四郎商店　東京淺草區茅町淺草橋際　電下一九二二三



洋織物 裁縫物
毛布 敷物類

何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

きらの赤毛の人に告ぐ

○二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黑き光澤を發し美麗なるは鳥羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髮中に硫黃質を含めるものにて此の硫黃質と液劑と毛中にて化合酸化硫黃となりて黑色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所　東京京橋本材木町三ノ四　岡田藥店

シンガー裁縫機械會社

北米合衆國紐育市

東京支店　東京銀座三丁目拾二番地

大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五十六番地

長崎支店　長崎大工町拾六番地

東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番地

「シンガーミシンは世界中一番高價なミシンですが、輕くて使ひ易くて丈夫で、機械の構造が完全して居ることも亦世界第一です。僅か五圓、十圓斗りの差ですから、全じく買ふのなら始めからシンガーミシンを御買ひなさい、經驗上御すゝめ致します」……とはミシンに委しき夫人方の實驗談！斯くの如く洋服店、裁縫店、足袋商、シャツ商、靴商に○○○○○○○○○○○○○○○○○○○大好評を得たるシンガーは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而してシンガーミシン專門の裁縫女學校も漸次增加し、東京のシンガーミシン裁縫女學院も新築工事は昨年七月中既に落成しました……定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン裁縫專門教授

規則書進呈　郵券封入御申込あれ

東京麴町區有樂町一丁目五番地　シンガーミシン裁縫女學院

大阪東區北濱壹丁目六番地　シンガーミシン裁縫女學校

毎月一回　新公論　價拾二錢

二月一日發行誌上には巖本善治の移民の現代と將來安部磯雄の市營の實例高楠博士の印度の大恩大內青巒の八分地代と三分長屋人物評論には三宅雪嶺と伊藤欽亮ありチャメンの惡魔の作れる日本語斯波貞吉の沙翁と杜翁其他に卒先の懺悔談浪花節と江戸ッ子あり萬籟一覽は例に依つて名家の所說五十餘篇を收めたり尙ほ日本最初の歐羅巴紀行は珍中の珍なるものと云ふべく世界の諷刺畫は益々出て益々妙也

發行所　東京本鄉區東片町百十番地　新公論社

松澤ホーサン石鹼

○色白く艶をだす最良之化粧石鹼（大形廿錢小形拾錢）

○到る所に販賣す（にせ物あり）松澤ホーサン石鹼と御買求を乞ふ

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉　（電話[illegible]四四七番）

女子に爲になる作文唯一雜誌

懸賞大景品

婦人持銀側時計	價格金拾圓
流行絹張洋傘	價格金五圓
新柄反物	價格金參圓
縮緬半襟	價格金壹圓
流行帶止	價格金壹圓
化粧品	價格金五拾錢
便利圖書切符	金七拾錢以內

（詳細は本誌を見よ論より證據）

東京市京橋大鋸町　振替口座壹七二九番　女子文壇社

二月一日發行　三卷第二號

第二回懸賞當選文滿載 ▲每月一日發行外に年四回增刊一冊百三十頁 ▲每號三宅水彩畫外繪端書縮手本誌友寫眞入 ▲價一冊拾錢八冊（半年分）七拾六錢外郵税一冊壹錢宛

◎美人とならんと欲せば一讀せよ

美人となる秘密は如何なる品を要するか？

●何故に美人は人生の最大幸福なるか？美は愉快を感じ心を爽然とす、愉快の感覺は精神の滋養となり、精神の滋養は追次に肉體の滋養となり、血は增し、肉は肥えて、體健全となり益々色艶美はしくなる●其初めに美人となるは日ノ出クリームを朝夕使用するにあり

本品は宮内省御買上の光榮を辱うす

高等化粧品　日ノ出クリーム

日の出化粧品一割引

（切取線）（愛國婦人を見て）と申越らるゝの方

美人トナル秘密

歐文ハウツービーピューチフル參照

色の白きは七難かくすと申して御婦人は勿論男子にても皮膚の綺麗な程快きものはなし此皮膚を綺麗にすると云ふことは平素の食物と衛生に依るとは云へ彼の歐米人が膚の美はしく皺の少なきは日ノ出クリームを缺くべからざる化粧品として使用しつゝある所以にして日ノ出クリームが又東洋の御方にも適當なることは衛生試驗所の證明其他各位の實驗に明かにてあります色を白くしキメ細かに美麗ならしむることは勿論日ノ出クリームは電氣乳劑なれば皮膚に摩擦する時は脂肪が一面に普及し柔軟ならしむる故老年に至るも皺の寄ることなく如何にも其花の如き姿を永く保ち得るてしようか又皮膚のあれ性の方は必ず朝夕御使用あれひゞしもやけ等にかゝるとなく又全治する特効を有す彼の恐るべき白粉の鉛毒を防ぐには無類の本流の薄化粧白粉や白粉下を用ゆるの要なく。又つき惡き眞の[illegible]鉛[illegible]の白粉を使用前日ノ出クリームを用うれば極めて美くしくつき。眞正の美人となることは獨逸國醫學博士エエホーン氏の證明する所さて如何に日ノ出クリームを使用すべきか一約め發混濁を浸したるタオルの切れにて面部を數分間溫蒸し自然との顏の毛孔に吸取られたる塵と垢を發出さしめ然後日ノ出クリームの極少量を指先さに付け十分（マッサージ）擦り込みたる後はハンカチーフ或は紙にてふき取らるべし一白粉を用ひらるゝ方は前記の如く拭ひ去りたる後白粉を用ひらるゝ時は衞生上有効なるのみならず櫻花の滋潤せし如く實に美麗な[illegible]むべし尙毛髮用日の出クリームはコスメチックと水香油を合せし如くにて適度に脫毛を止め毛髮を保護養成する煉香油なり化粧用毛髮用共に佳香馥郁の佳品にして衛生的に完備せり

化粧用美人劑は日ノ出クリーム　毛髮用煉香油は

定價

	製	大瓶	中瓶	小瓶	見本瓶
價	二圓	一圓	五十錢	三十錢	十錢
郵税	（十錢）		（四錢）		

高等水香油（フケトリ）　日ノ出オイル　大一圓。中五十錢。小廿五錢。

右中瓶以上直接御注文の方は御年玉として優美の化粧品を送呈す

東京日本橋區村松町廿二番地　日本一手販賣元　舶來化粧品商　須原啓三郎商店

有名信用ある小間物店に販賣す

日ノ出クリーム特約大販賣店

銀座壹	佐々木
淺草	百助
須田町	三ツ井屋
小川町	信盛堂
白牡丹	各店
本鄉	兼康
牛込	山城屋
馬喰町	花王堂
横山町	脇田
同	村藤
同	近源
通鹽町	大和屋
長谷川町	廣田
牛込	酒井
吾妻橋	尾張屋
大阪	小林支店

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本金八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 一三〇〇番 一五三〇番 一九三三番

同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番

一 定期預金 六ヶ月以上年五分
一 當座預金 日歩七厘以下
一 特別當座預金 同 壹錢

西洋薄化粧料

女俳優マダム 川上貞奴
俳國みやぎ

此ヤッコで顔を洗ひますと色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料ゆへ日本流の薄化粧や白粉下などを用ひるに及びません

ヤッコ

●定價一錦廿錢全國送貨四錢三錦美麗函入五十五錢同送貨十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ）

東京神田區御成道田代町九番地
ヤッコ日本一手發賣元
原品直輸入元 地球堂 田中丹治

德用 大俵炭 堅炭 土釜

右大俵炭は山出しのまゝにて壹俵の目方は拾貫目内外皆かます入に候賣買は目方に掛け候故至極御經濟の燃料に候間是非一度御ためし願度御用の節は電話又は端書にて被仰附候へば遠近多少を問はず無賃配達仕候

東京市神田區三崎川岸
電話本局三千貳百八番 戸塚商店

東洋一 製造大販賣 御小賣
夜具・蒲團 綿類 ざぶとん

●上等下等澤山あり御好次第山の如し
●街鐵も外堀線も小川町東明館前下車を乞
東京神田區表神保町

諸官省御用
●綿質保險附●確實大安賣●縦覽御隨意
矢田商店
電話本局長二〇二八
市内無賃配達

高等香油
チエリーオーイル
紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらく〳〵として水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髪用としては非常に高評を博しつゝあり
定價入十五錢、四十五錢廿五錢（送料各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり
東京日本橋區本町二丁目
發賣元 高橋初次郎
特電四一二三番

御題 新年松

あら玉の年と共にそさかえゆく松の緑の色まさりける　長野　隱岐きん子

かぎりなき御代をことほく年にあひて園生の松も緑そふらん　埼玉　水野　淑子

けふもまたその年ひとつかされけり老木の松の初日むかへて　東京　木内きぬ子

家々に門松たてゝ賑ふなり靜けき御代の年の始めを　山口　國佐　春子

君かます都大路の家ことに初日の影をうつす門松　東京　金子　幸子

しつかなる年をむかへて松の枝に朝日まはゆくさし渡るなり　岐阜　忘津たま子

大御代の千代田の宮の松風も實に靜なる年たちにけり　青森　西澤　泉子

年立ちていやさかゆるは信濃なる御料へ松の林なりけり　長野　廣長　清子

千歳ふる松の齢も君か代も久しかるへき年たちにけり　岡澤　仲子

新しき年の初日の影そひて榮けたかき御園生の松　函館　龍岡とし子

軍よりかへれる兄か手植せし松にしめはへ年をむかへん　仝　飯塚むつ子

新玉の年をむかへて相生の松に千代呼ふひな鶴の聲　長崎　江口　武子

あら玉の年の光もほのめきてちとせかはらぬ松そ嬉しき　東京　日吉　里子

年立ては千代の始めと里人の雪けのひまに小松植らん　三重　末　とよ子

年のたつ門にかされる姫小松老いん末まてたち榮ゆへし　山梨　保坂みち子

いにしへの古き都の老松も年をむかへてあらたまりぬる　兵庫　山本ゑい子

さしのほる初日と共に松か枝は幾千代までも色はかはらし　京都　岩室　駒子

君か代の根さし初日にみゆるかな神代なからの樺太の松　三重　西山ひさゑ

治まれる御代かはらしと門松をたてゝ初日を祝ふけふかな　京都　楠　松枝

千歳ふる御園の松に初日の出枝に鶴舞ひ根に龜遊ふ　東京　南部起志子

つく杖の千歳にあまる老松となほ色深く年むかふらし　山口　乾瀨千勢子

大御代の千歳を祝ふ門松のかはらぬ色に鶴そしたへる　熊本　田尻なみ子

あら玉の年の始めは若松のみとり常より色まさりけり　同　田尻ゑと子

初日影さすかやまとの花なれやみさをの色のにほふ門松　長崎　田村梅能子

都路も鄙もたのしくかそふらん若かへる世の松の齢を　宮崎　財部ふみ子

美しきみとりの松は御園生に年たつ御代の君をあふきて　東京　安東　綠子

みとりなす年たつ山の松の葉にいつる朝日の影そまはゆき　仝　安東ちせ子

新年の門に賑ふ松か枝のちよをことほくしめかさりかな　大阪　今岡　貞子

新案 第二回の 大懸賞珍附錄を御覽なさい

婦人世界

二月號 一日發行 二卷第貳號
毎月一回 一冊拾五錢 郵税壹錢 六冊八拾五錢 郵税六錢 十二冊壹圓六拾錢 共郵税九拾錢

大好評 新時代の生活法 村井弦齋
△妻は如何に美しくすべきか △皮膚は如何に美くすべきか △身體は如何に美くすべきか
△心は如何に美くするか △心は如何に修養するか △深呼吸は如何にするか

娘も妻も母も女學生も皆是非一讀すべき大文字

前號以上の 第二回大懸賞珍附錄
當選者へ 十八金指輪△銀側懐中時計△袖絞り東りぼん△金帶止△ゴムスポンヂ△新案縞帖△半襟△裏地 總計 千四百點 賞品

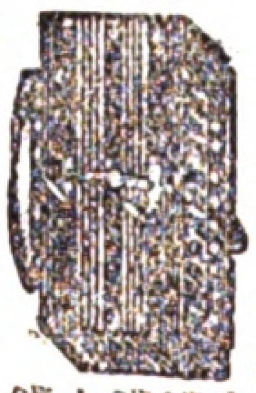
◉梅を詠じたる古來の名歌
◉鼻の形と其病 佐藤ドクトル
◉私の感心せる女學生 西田
◉輕いお産と重い產（山田）
◉わが良人の禁煙實驗
◉衛生的結婚法
◉齒磨楊枝の使ひ方（大原）
◉七十にて單身洋行 矢島楫子女史

◉小兒瘰癧の話：加藤博士
◉我國の最新結婚式
◉三浦博士考案の醬油入
◉弦齋夫人料理談（野鳥、雛子、南京豆料理 飯の出來損ひを直す法）
◉名家結婚訓◉家庭の重寶
◉少女欄 益々有益の話があり升

東京南紺屋町十二番地
實業之日本社
電話新橋七四八 振替貯金參貳六番

◎和洋バイオリン新着◎西川製風琴

無師獨奏 紙腔琴

舶來 手風琴


◎配用曲目二百五十餘種出來
●定價 大形上製金十五圓 同中製金九圓七十五錢 ●小形金五圓
定價 三圓三十錢 三圓五十錢 四圓五十錢 六圓七十錢 八圓十圓

西洋（ハーモニカ）横笛

●定價 金卅五錢 四十錢 五十錢 六十錢 七十錢 一圓 十五錢 一圓五十錢 廿錢 一圓 五十錢以上

發音器

定價 金二十五圓 金四十圓 金五十圓 金五十八圓 金六十圓 金八十五圓

新案遊戲 鬪球盤
●金一圓五十錢 二圓五十錢 三圓五十錢 五圓五十錢

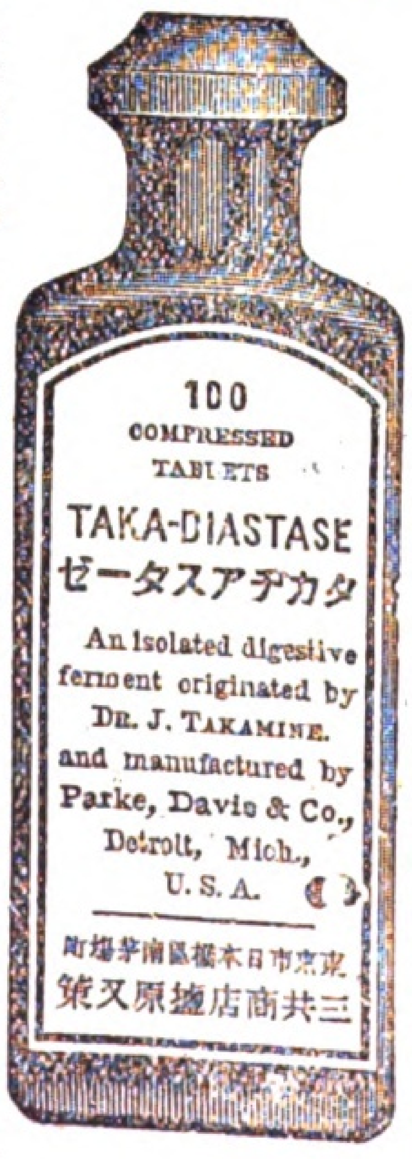
◎長原政二郎著 舞踏必携 ダイアモンド 正價卅錢 郵税二錢
歐米各國 舞踏大觀

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

消化新藥

醫學博士 井上善次郎氏の實驗報告に曰く
胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士 栗本東明氏の實驗報告抄錄
高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり
錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。
實驗報告集は無代進呈



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

梅田竹次郎先生著

(新版)和洋 製造 **菓子のおけいこ**

よみ切○紙數二百十頁○石版刷表紙頗美本○總かなつき○價廿八錢○郵税四錢

此本わ手輕な御茶受けや御懇意先え御使物になさる御菓子を嬢様方に解りよく道具わ一つも買わないで速に出來て美味物計りを百五十種を極く親切に書かれたもので申す迄もなく六ヶ敷い言語や文字わ一つも書ません本わ買たが御菓子は出來ぬと申す様な事のないのを堅くお受合します高いお金を出して通り一遍の御使物などよりは情のこもッた御手製の御使物などわ又一層の御慰みでしよを

上の、みはし、忍川主人編述

第三版 **豆腐のお料理**

よみ切○紙數二百餘頁○石版刷表紙美本○繪入かな附○價廿八錢○郵税四錢

お料理の數わ百九十種で材料わ僅かに一錢五厘の豆腐です料理わ各異い升から毎日食ても倦ない様になッて居升衛生によく滋養充分で安くて美味く是が實際の惣菜料理てす

メエリーウヰルソン女史○大町松波女史合著

第九版 **洋食のおけいこ**

修正第一版○紙數百九十○石版刷表紙美本○繪入かな附○價廿八錢○郵税四錢

此本の御評判が立ました譯わ材料が牛や豚に限ッた譯でなく費が少なく手輕で十三四の嬢様にても解ると申す譯で其他に料理の心得や御客に出し方食方等も書いて有升實に便利な御本てす

近定主人屋中定吉翁編述

第三版 **さつま芋お料理**

よみきり紙數百七十頁○美いな表紙繪入りなつき○價廿八錢○郵税四錢

皆様のお好きな御薩のお料理てす御酒を召上る方がお好にならぬのわ御料理の御仕方が御惡いからです此本に書いてありますのわ上戸にも下戸にも好かれ甘い臓いの種々で百廿種の珍らしい料理が出來升

井上秋江女史著

第五版 **清物のおけいこ**

よみきり○紙數二百余頁○石版刷表紙極美本○繪入かなつき價廿八錢○郵税四錢

お漬物のないお宅わ有升まい此本わ其漬物を美味く安く漬る仕方です其れと申して別に費が掛る譯てわ有ませんのが此本のよい所てす同青物ても漬方を種々にして家内中を嬉ばせて下さい

各専門家七名合編紙數二百廿頁挿圖二百廿

裁縫のおけいこ

總かなつき美いな表紙價三十五錢郵税四錢

裁縫の御本わ是迄に出來て居ますが此迄の本わ裁縫の心得が何程かある方が御覽にならなければ解らないもの計りでしたが是わ其様な不便がない様に極く〳〵親切に手を取ッて教える様に書いて有升から裁ち縫いの事を何も御存じのない幼ない嬢様方が御覽になッてよくお解りになりますと云う事を受合て置ます計りでなく親御様の御口添にも及ませんゆ申す迄もなく六敷い言葉や字も書きませんドヲカ現品を御覽下さッて成程これなれば、たとえ裁縫に關係のない男の子が見てさえ善く解ると思召たら嬢様方やお若い女中方の爲めに一册求めて載げて下され

ねづみや足袋本店野村福藏述

足袋の裁ちぬいおけいこ

全一册總かなつきたび形十八となりつき其ほか繪入り石版刷表紙頗る美本○價廿八錢郵税四錢

たび形入●婦人のなさるお仕事の中でもお覺えになッて直に必用なものと唯御心得だけてよいものとが有升が足袋等わ何わサテ置き第一番に御研究にならなくてわ成升まい、所がお縫いになるのわ手輕ても足袋形の完全なのがない爲にお縫いにならぬ事と存じ升けれど一足お買いなる價で三四足も出來るのですもの足袋形の這入ッた此本が出來ましたからにわ一家の御婦人方わドヲシテモだまッて見て居られますまい是非一册御求になッて一家の爲をして下さい形わ五文から十二文迄十八種其儀御使いになる事の出來る樣にしてあります

發行所 東京神田小川町 電本三〇九六番 **寶永館**

市内わ毎度の通り電話か葉書で仰せ下さい

最も安全なる買物

東京買物用達合名會社

(神田區千代田町)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）

日本興業銀行

電話本局（三、三〇〇番 四一一番）（特）三七一番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 森村銀行

電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上	年五分五厘
當座預金 百圓に付日步	八厘
特別當座預金 同日步	壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目

株式會社 第三銀行

電話浪花四二一番 電話浪花四五一番

預金利子

定期預金 六ヶ月以上	年五分
當座預金 百圓に付日步	八厘
別口當座 同日步	壹錢

全國送金手數料
其他銀行一般の業務を便宜に取扱可申候

スコット乳藥

小兒ノ發育期ニハ其用ユレバ最モ效驗著ナスモノハ明證ノアルリ

説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳藥部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館

米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及
西洋料理◎

◎品質佳良の肉類廉價に販賣候
◎配達は迅速に且つ正確に致候
◎滋養と風味の西洋料理調製候
◎西洋料理出前は格別相働き候
◎米店は精撰の白米廉價販賣候
◎御注文は電話又は葉書で願候

小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町 卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四二一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
共進會銀牌受領
頭髪香油 パール

日本發賣元 東京平尾分店

○銀側兩蓋之部 流行婦人持

瑞西石入向爪アンクル	價八圓半
同總石入上向アンクル	價十圓半
同寫二枚總石入上向爪	價十三圓半
米國中鍍付切天然向爪	價十四圓
米國中鍍付上等品	價十七圓半

○金側兩蓋之部 流行婦人持

瑞西國十八金側婦人持	價三十三圓
瑞西大金側中形紳士持	價六十九圓
米國製大金中形紳士持	價七十九圓
瑞西18金側形18紳士持	價九十五圓
米國製18金形18紳士持	價百十五圓

商品案内 無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目 電話新橋（二三三一）

伊勢伊時計店

醫院案内

小兒病診療

宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 烏山南壽次郎
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番
烏山内科院

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

東京神田區美土代町三丁目十七番地
内科一般
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番
板垣亨

院長 醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
副院長 醫學士 久保徳太郎 每日夕刻診察
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）
婦人科産科 榊病院

内科小兒科 特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

◎婦人病 專門
院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四
櫻井醫院

◎水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

産科婦人科 專門
歸朝後於本院診療に從事す
トクトル 樋口繁次
二各科 診察從前の通
芝愛宕町 新二六四 同二六二〇
東京病院

◎婦人科
◎小兒科專門
午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

小兒科
乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
拙者儀久ク獨逸伯林大學ニ於テ斯學ヲ專攻シ歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

眼科專門
神田區連雀町十八番地（郵便局前）
ドクトル 宇良田唯子
▲毎月第一日は藥價診料共無料

第廿六回 第三回
産科婦人科學講習
高等産婦科新學期
東京日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用 ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは（拾貳匁）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子て洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

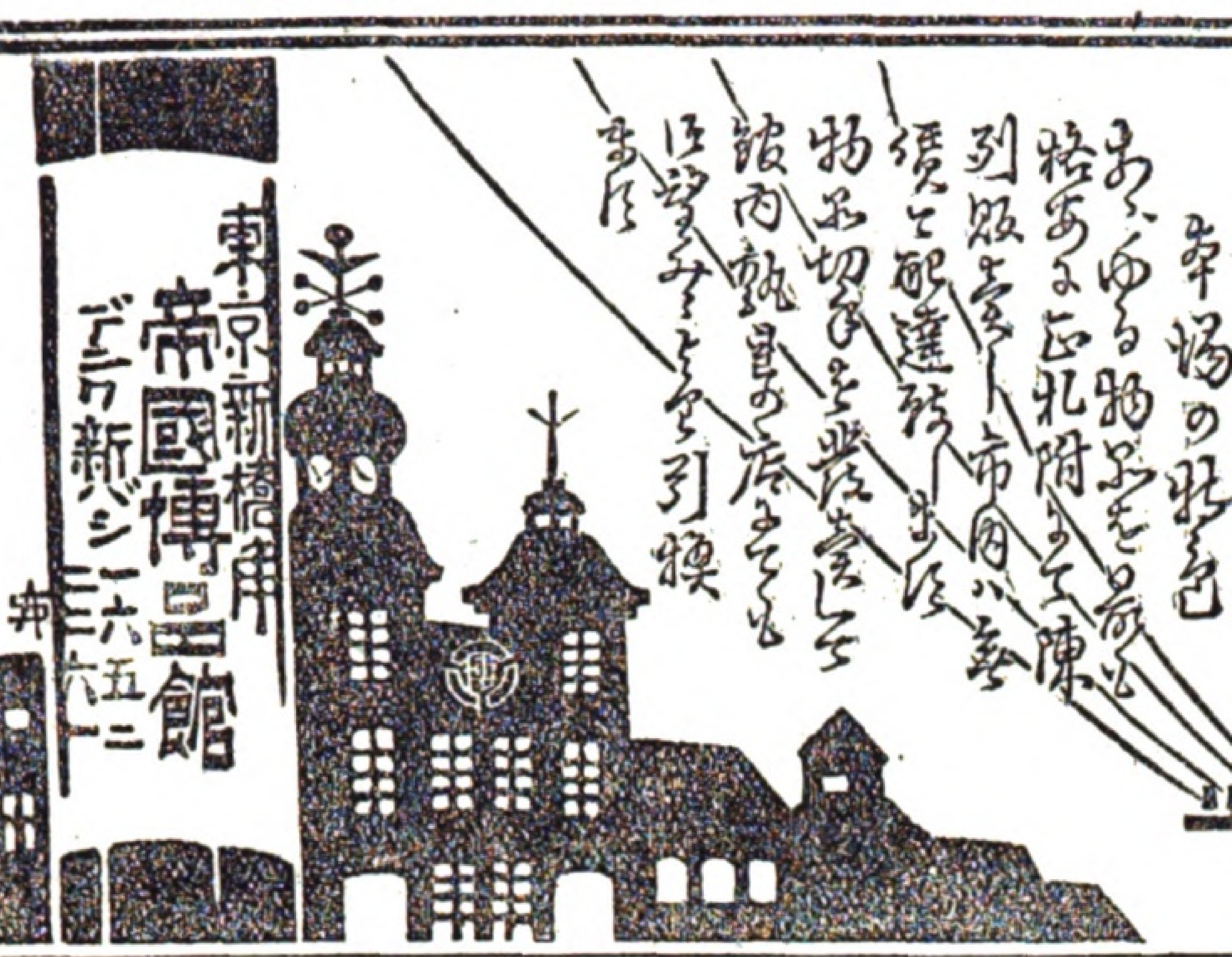
芳香御肌洗粉 ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々すおしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢　金貳拾錢　普通 五拾錢　六錢　參拾錢　三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

日本第一の大勸業場



初春の装
歐米各國御婦人用品卒先輸入
御婦人装飾品多數
西洋諸小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與
三枝小賣店
電話新橋三九二七番

農村の幸福法

愛國婦人記者 手島益雄氏著

全一冊　定價金三十錢　郵税金四錢

本書新聞批評

◉東京毎日新聞　此書は著者自治協會に捧けられしものにて、如何にすれば農村が時代に適應せる家庭を組織し得るか、また如何にすれば一村一家の幸福な増進し得るかを親切丁寧に説明せしものにて上編は家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、衞生、會合、娯樂の十章、後編は家庭曆、簺所の設備及び如何にすれば貧乏になる乎の三編を以てせられしなり、稀には隨分獨斷的の文字、或はあまり理想に偏せるものなきにあらねど、總じて着實にして實際的に重きを置かれし有益なる書籍にて、單り農村のみならず一般家庭の好參考書なり

◉二六新報　家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、衞生、會合、娯樂の十章に分ちて、日常適切の諸問題を、極めて平易通俗に説述したる、一種の國民讀本とも謂ふべきものにして、編中幾多の逸話を挿みて、感興を添へたり、警拔の言説なしと雖も、何れも穩健にして、好調の常識論たるを失はず。

◉萬朝報・農村を幸福にせむが爲めの方法を、家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、衞生、會合、娯樂等の各方面より論じたるものにして、更に「家庭曆を作れ」「簺所の設備は如何にす可きか」「如何にすれば貧乏になるか」等をも述べたり、農家の人は讀みて損なかるべし。

本書新聞批評

◉讀賣新聞　題目が幸福法といふこしらえ過ぎのだからヘンに思つて讀んで見ると、比較的健全な思想で書かれてある。先づ前編を家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、會合、娯樂の十章に分ち、後編を家庭曆、簺所の設備「如何にすれば貧乏になれか」の三章に分けて、それ〳〵所謂幸福になる法を説法して居る。殊に一知半解の農事改良家や農學者が、無闇に理屈を担れると違ひ、なか〳〵分つたところもある。即ち娯樂の章では芝居、音樂、角力、盆踊を盛んに行れと農村の子弟を單調の趣味より救はうと企てたところ、いろ〳〵の産業組合の外召使懇親會、無料宿泊所、動物虐待防止會、處女會といふやうな社會的の會合を農村に起せと云つたところなど隨分砕けて居る。殊に簺所の改良を語り一層廢止して飯配達會社を起せと云つて居るところなどなか〳〵面白い。之等の問題は皆な別々に會つて、唱導せられたことなれど、農村へ讀ますものとして斯く多方面に於ける古過ぎぬ思想を擽り別けて編んで奐れた著者の勞又た大なりといはればならぬ。文章は言文一致で先づ平易懇切といふ方てある。

發行所　東京本郷區東片町百十一番地（振替貯金口座三二四〇）新公論社
取次所　東京麹町愛國婦人會内（電話番五二〇）愛國婦人發行所

補血良劑

ヌポール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
（電話本局特四九一　電話本局三〇一八）

登録商標 N.R. CO

ゴム裏雪踏

●發賣元　東京市神田區上白銀町九番地（電話本局貳千五百五十零番）今井商店

●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり（近頃粗惡なる類似品あり商標に御注意を乞ふ）

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷（特九六五番　一二四四番）

都足袋粋乃友

◯都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登録商標専用ヲ得タル物ナリ
◯都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
◯都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコトナシ
◯都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ
◯都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル効力ヲ有セリ

三重足袋君の益

◯三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
◯三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒ムサヲ防グ効力ヲ有ス
◯三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂防ノ滲出ヲ遮ギリ體溫ヲ保ツノ効力アリ

龜屋

東京日本橋室町三丁目　龜屋足袋店
電話本局一七一二番　宮内清兵衛（略電信カメヤ又カ）

明治四十年二月五日發行（毎月五日二十日二回）（定價金三錢一ヶ月六錢郵税不要廣告料一行金六拾錢）發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京牛込區市谷加賀町　秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百二十一號附錄

明治四十年二月五日發行（每月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人會島根支部職員

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN